

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	憲 法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	憲法は「統治機構」と「人権」の2つの部分から成り、相互に密接に結びついている。憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構が作られているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。国家権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。さらに、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することが、この授業のテーマである。				
授業概要	日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関して判例・学説を基に様々な解釈を、統治機構に関しては条文を中心に解説をする。				
授業計画	1. 憲法と立憲主義・日本憲法史 2. 日本国憲法の構成と基本原理 3. 基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等 4. 精神的自由権 5. 身体的自由権 6. 経済的自由権 7. 社会権 8. 参政权と国務請求権 9. 統治機構の基本原理 10. 国会と立法権 11. 内閣と行政権 12. 裁判所と司法権 13. 財政 14. 地方自治 15. 憲法改正				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価: 国家の統治機構・三大基本原理（「国民主権」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」）の構及び日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解する科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「憲法」（配本テキスト） 参考書・参考資料等 テキストに示されている資料の他、「ポケット六法」「デイリー六法」「コンサイス六法」などの「六法」				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	情報リテラシーと処理技術	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。				
授業概要	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習する。				
授業計画	1.情報化社会 2.コンピュータの発展 3.ハードウェア 4.ソフトウェア 5.情報ネットワーク 6.インターネット 7.情報システムの課題 8.Windowsの基本操作 9.文書作成の基本①(書式設定) 10.文書作成の基本②(図形・表) 11.文書作成の基本③(ページ設定) 12.表計算の基本①(書式設定) 13.表計算の基本②(計算式・関数) 14.表計算の基本③(グラフ機能) 15.プレゼンテーションの基本				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価:PC 実技や科目試験の結果により総合的に判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） ※科目試験 50%、実技 50%の平均により成績評価を行う				
使用テキスト等	「情報リテラシーと処理技術」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	システムエンジニア経験(5年)、工学士、第1種情報処理技術者、システムアドミニストレータ 大学非常勤講師(3年)(専門学校常勤講師(7年) ※上記の経歴を持つ教員による授業で、PCの基礎知識と技能を身に付ける。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こども学概論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	人はみな「こども」として生きる時期を経て大人になり、また新たな世代の「こども」と共に生きている。そのような私たちにとって身近な存在である「こども」を説明するには、どのような視点がふさわしいであろうか。この授業は「こども」をより多面的にとらえることによって、「こども」に対する理解を深めることを目標とする。様々な時代・社会・文化における「こども」のあり方や「こども」のとらえられ方に注目し、養育者や保育者のあり方についても考察を加える。				
授業概要	こども学は、近年注目を浴びながら発展する学問である。これまで、医学・心理学・教育学・社会学・文化人類学など様々な学問領域において、「こども」を対象とする研究がそれぞれ進められてきた。しかし、本来「こども」はひとりの人間としてひとつの時代を生きる存在であるため、総体として理解される必要がある。そこでこの授業では、こども学の成り立ちを知り、諸々の学問領域に由来する「こども」に関する知見を統合することによって、「こども」の実像により近づくことを目指す。				
授業計画	1. こども学とは何か？ 2. こども観の歴史的変遷 3. 法律とこどもの権利 4. こどもの発達・成長 5. こどもの内なる世界、見る・感じる 6. こどもの障害・病理 7. 家族のあり方の多様化とこども 8. しつけと虐待 9. こどもの学びと教育 10. カウンセリングの基本 11. 医療・福祉領域におけるこどもへの取り組み 12. こどもを取り巻く環境としての現代社会 13. こどもとメディア 14. こどもをめぐる経済 15. さまざまな状況で生きる世界のこどもたち				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「こども学概論」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説書」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	英語コミュニケーション	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	今日では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場に必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。 レポート: 平易な英語で書かれた物語および子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。 科目試験: 英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることができるとともに子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。				
授業概要	本テキストは3つの Chapter からなっている。Chapter1は基礎的な項目が中心で、基礎が理解できていない人はまず Chapter1を丁寧に学習して、英語の基礎を理解するよう努力する。英語の基礎に自信がある人は Chapter1にはあまり時間をかけずに Chapter2に進み、英語の理解を深める。Chapter3では、保育の現場でのさまざまな生活場면을題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。				
授業計画	Chapter1 1. 英語の文法(動詞、形容詞・副詞) 2. 英語の文法(比較、代名詞、疑問詞) 3. 英語の文法(進行形、完了形、受動態) Chapter2 4. 英語の基礎構文(5文型) 5. 英語の基礎構文(修飾語句) 6. 英語の基礎構文(接続詞、仮定法) Chapter3 7. 入園準備 8. 登園・降園 9. 室内遊び 10. 外遊び 11. 健康・病気・けが 12. 運動・お散歩 13. 食事 14. 工作・お絵かき 15. おたより・行事				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 科目の成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「英語コミュニケーション」(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	健康科学	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	健康は基本的には自分で管理・守るべきものである。近年、健康に関する情報が多く、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。健康の三本柱とストレス対処について学び、現在の自分の生活を見直すことが重要である。 本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになることを目的とする。 レポート:健康寿命とは、どのようなものか、自分の言葉で説明できるようになる。 科目試験:運動の基礎理論および体力を知ることにより、自ら健康な生活を送ることができるようになる。				
授業概要	健康科学のテキストにより科学的健康・体力づくりの方法を学ぶ。				
授業計画	1. 健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える 2. 運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ 3. 運動生理学 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める 4. 救命救急 救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方を学ぶ 5. 運動処方① 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ 6. 運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ 7. 健康日本 21 「健康日本 21」から自己の健康への課題を探る 8. 生活と運動 自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「健康科学」(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	スポーツ(実技)	授業区分	実技	単位数	1
授業目標	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集团的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、ニュースポーツも体験・理解する。 スクーリング: バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・ニュースポーツなどを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになる。				
授業概要	各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。				
授業計画	1. ガイダンス 2. バレーボール①基本練習 3. バレーボール②応用練習 4. バレーボール③ゲーム・審判 5. 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス 6. バドミントン①基本練習 7. バドミントン②シングルのゲーム 8. バドミントン③ダブルスのゲーム 9. バスケットボール①基本練習・応用練習 10. バスケットボール②ゲーム・審判 11. 卓球①基本練習 12. 卓球②シングルのゲーム 13. 卓球③ダブルスのゲーム 14. ニュースポーツ学ぶ(ティーボールなど) 15. ウォーキングとその効果について				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「健康科学」(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育原理	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。				
授業概要	子どもをめぐる環境を踏まえながら、保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保護者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追及する。				
授業計画	1保育の理念と概念 2子どもの最善の利益と保育 3子ども家庭福祉と保育 4保育の社会的役割と責任 5子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令 6子ども・子育て支援新制度 7保育の実施体系 8保育所保育指針 9 保育所保育に関する基本原則 10 保育における養護 11 保育の目標・内容 12 保育の環境・方法 13 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環 14 日本・諸外国の保育の思想と歴史 15 諸外国の保育の現状・日本の保育の現状と課題				
成績評価基準	成績評価:出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。せいせき				
使用テキスト等	「保育原理」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所保育士(24年)認定こども園園長(5年 現職) ※上記の経歴を持つ教員による授業で、保育の基礎的知識や歴史等、子ども、保護者、保育者の各視点から保育をとらえる授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育原理	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	教育の思想とその作用、また我が国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。 教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。				
授業概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。				
授業計画	1 教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性 2 世界の教育思想①ソクラテス〜ルソーの思想・実践 3 世界の教育思想②ヘルバルト〜デューイの思想・実践 4 日本の教育思想 5 子どもの発達と教育 6 子どもの権利 7 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園 8 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園 9 世界における教育の歴史的変遷 10日本における教育の歴史的変遷 11公教育制度、義務教育制度 12教師という仕事、教授法 13教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化 14教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング 15教育における今日的課題③学校外との連携				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「教育原理」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こども家庭福祉	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
授業概要	子ども家庭福祉の意義と歴史、権利擁護、それに係る法則や実施体系等について理解する。また、子ども家庭福祉の現状と課題について、少子化対策や虐待防止、貧困家庭や外国語の子どもや家庭への対応等の視点で理解する。				
業 計 画	1 子ども家庭福祉の理念と概念 9 児童福祉施設等・子ども家庭福祉の専門職、実施者 2 子ども家庭福祉の歴史の変遷 10 少子化と地域子育て支援・母子保健と児童健全育成 3 現代社会と子ども家庭福祉 11 多様な保育ニーズへの対応・児童虐待・ドメスティックバイオレンス 4 子どもの人権擁護の歴史の変遷 12 社会的養護・障害のある子ども・少年非行などへの対応 5 児童の権利に関する条約 13 諸外国の動向・貧困家庭・外国につながる子どもとその家庭への支援 6 子どもの人権擁護と現代社会における課題 14 子ども家庭福祉の動向と展望 7 子ども家庭福祉の制度と法体系 15 保育・教育・療育・保健・医療との連携ネットワーク 8 子ども家庭福祉行財政と実施機関				
成績評価基準	授業態度・出席状況・レポート提出・テスト等で、総合評価とする。				
使用テキスト等	「こども家庭福祉」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年) の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、子ども家庭福祉の歴史と現状、その対応についての授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	社会福祉論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。				
授業概要	保護者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について学びを深めながら、現代の社会福祉の動向、制度や関係機関の実施体系等についての把握に努める。併せて、社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解していく。				
授業計画	1 社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史的変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉行財政と実施機関 6 社会福祉施設 7 社会福祉の専門職 8 社会保障及び関連制度の概要 9 相談援助の理論、相談援助の意義と機能 10 相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術 11 情報提供と第三者評価 12 利用者の権利擁護と苦情解決 13 少子高齢化社会における子育て支援 共生社会の実現と障害者施策 14 在宅福祉の地域福祉の推進、諸外国の動向				
成績評価基準	授業態度・出席状況・レポート提出・テスト等で、総合評価とする。				
使用テキスト等	「社会福祉論」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年)、乳児院(21年)の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員による授業で、社会福祉の制度や体系、相談援助等について学習を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こども家庭支援論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	子ども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。				
授業概要	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。				
授業計画	1. 家族・家庭・世帯とは 2. 家族と家庭の形態と機能 3. ライフステージ 4. 社会環境の変化と現代の家庭 5. 現代の家庭と子育てをめぐる問題 6. 要保護家庭の問題 7. 子育て家庭を支援する法・制度 8. 子育て家庭を支援する社会資源 9. 新たな子育て支援制度 10. 子育て家庭支援の体系 11. 保育者による家庭支援の原理 12. 保育所における子育て家庭支援 13. 地域における子育て家庭支援 14. 子ども家庭福祉の諸相 15. 要保護児童とその家庭に対する支援				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「こども家庭支援論」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説書」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				
実務経験がある教員による授業科目	保育所（保育士・園長 通算15年） 乳児院（21年）の勤務歴があり、社会福祉士・介護支援相談員の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、子育て支援の現状、その対応についての授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	社会的養護Ⅰ	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。																				
授業概要	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷や社会的養護に係る法制、仕組、実施体系について理解する。 また、家庭養護や施設養護の対象や専門職、施設等の現状や課題を理解する。																				
	<table><tr><td>1 社会的養護の理念と概念</td><td>9 家庭養護と実施養護</td></tr><tr><td>2 社会的養護の歴史的変遷</td><td>10 社会的養護に関わる専門職</td></tr><tr><td>3 子どもの人権擁護と社会的養護</td><td>11 社会的養護に関わる社会的状況</td></tr><tr><td>4 社会的養護の基本原則</td><td>12 施設等の運営管理</td></tr><tr><td>5 社会的養護における保育士等の倫理と責務</td><td>13 被措置児童等の虐待防止</td></tr><tr><td>6 社会的養護の制度と法体系</td><td>14 社会的養護と地域福祉</td></tr><tr><td>7 社会的養護の仕組みと実施体系</td><td>15 今後の課題(施設養護のあり方)</td></tr><tr><td>8 社会的養護の対象</td><td></td></tr></table>					1 社会的養護の理念と概念	9 家庭養護と実施養護	2 社会的養護の歴史的変遷	10 社会的養護に関わる専門職	3 子どもの人権擁護と社会的養護	11 社会的養護に関わる社会的状況	4 社会的養護の基本原則	12 施設等の運営管理	5 社会的養護における保育士等の倫理と責務	13 被措置児童等の虐待防止	6 社会的養護の制度と法体系	14 社会的養護と地域福祉	7 社会的養護の仕組みと実施体系	15 今後の課題(施設養護のあり方)	8 社会的養護の対象	
1 社会的養護の理念と概念	9 家庭養護と実施養護																				
2 社会的養護の歴史的変遷	10 社会的養護に関わる専門職																				
3 子どもの人権擁護と社会的養護	11 社会的養護に関わる社会的状況																				
4 社会的養護の基本原則	12 施設等の運営管理																				
5 社会的養護における保育士等の倫理と責務	13 被措置児童等の虐待防止																				
6 社会的養護の制度と法体系	14 社会的養護と地域福祉																				
7 社会的養護の仕組みと実施体系	15 今後の課題(施設養護のあり方)																				
8 社会的養護の対象																					
成績評価基準	出席状況、授業態度、試験、レポート内容等を総合的に評価する。																				
使用テキスト等	「社会的養護Ⅰ」(配本テキスト)																				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教職論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職(保育)の意義、教職者(保育者)の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深める。さらに、教職(保育)は、子どもの成長発達に指導、援助する仕事であることを理解し、教育(保育)への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき教育(保育)のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立を図る。				
授業概要	本授業は望ましい教職者(保育者)とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。				
授業計画	1. 教職(保育)の意義・定義・教職(保育)者とは何か 2. 教職(保育)者に求められる資質・能力 3. 教員(保育者)養成の歴史 4. 教職(保育)者の資質と役割 5. 指導計画(保育のねらい・内容) 6. 教職(保育)者の仕事・義務・研修 7. 教職(保育)者の職場環境 8. 教職者の制度的な位置付け 9. 教職者の任用と服務 10. 教育(保育)現場におけるこどもとの関わり(あそび・環境) 11. 教育(保育)現場における家庭との連携・支援、地域との連携 12. 教職(保育)観の変遷と教員(保育者)の役割 13. 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携(接続カリキュラム) 14. 今日的な教育課題に対応するために(「チーム学校」等) 15. よい教職者(保育者)になるために(教育実習への心構え)				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる) 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「教職論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員(教諭・校長 通算33年) 教育センター指導主事(5年) 幼稚園長(3年) ※上記の経験を持つ教員により、教職(保育)者に求められる資質能力、制度的な位置づけ、教育(保育)現場での役割等について学ぶ。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	発達心理学	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。				
授業概要	子どもの発達に関わる心理学の基礎を修得し、保育の基本となる子どもへの理解を深める。また、乳幼児の学びの過程や特性に係る基礎的な知識を修得し、保育における人との関わりや体験、環境の意義を理解する。				
授業計画	1 子どもの発達を理解することの意義 2 子どもの発達と環境 3 発達理論と子ども観・保育観 4 社会情動的発達(乳児期～幼児前期) 5 社会情動的発達(幼児後期～児童期) 6 身体機能と運動機能の発達 7 認知の発達 8 言語の発達 9 人との相互的にかかわりと子どもの発達 10 発達課題と発達援助 11 乳幼児期の学びに係る理論 12 学びの過程と特性(乳児期～幼児前期) 13 学びの過程と特性(幼児後期～児童期) 14 乳幼児期の学びを支える保育 15 発達障害の理解と対応				
成績評価基準	出席状況・授業態度・レポート課題の内容・科目試験等を総合的に評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「発達心理学」(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの発達と家庭支援	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
授業概要	生涯発達に関する心理学の基礎を習得するとともに、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等を発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を身に付ける。併せて子育て家庭に係る課題を理解する。				
授業計画	1 乳幼児期から学童期前期にかけての発達 2 学童期後期から青年期にかけての発達 3 成人期・老年期における発達 4 家族・家庭の理解 5 家族・家庭の意義と機能 6 親子関係・家族関係の理解 7 子育ての経験と親としての育ち 8 子育て家庭に関する現状と課題 9 子育てを取り巻く社会的状況 10 ライフコースと仕事・子育て 11 多様な家庭とその理解 12 特別な配慮を要する家庭 13 子どもの精神保健とその課題 14 子どもの生活・生育環境とその影響 15 子どもの心の健康に関わる問題				
成績評価基準	授業態度・出席状況・レポート課題の内容・科目試験等で、総合評価とする。 （評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「こどもの発達と家庭支援」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの理解と援助	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育者には、子どもを理解したうえでの援助が求められる。本授業科目では、子ども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。				
授業概要	授業計画の1～8では以下のことを習得することを目指す。 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				
授業計画	1. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握① (1) 保育における子どもの理解の意義 (2) 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 2. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握② (1) 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 3. 子どもを理解する視点① (1) 子どもの生活や遊び (2) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (3) 子ども相互の関わりと関係づくり (4) 集団における経験と育ち 4. 子どもを理解する視点② (1) 葛藤やつまずき (2) 保育の環境の理解と構成 (3) 環境の変化や移行 5. 子どもを理解する方法① (1) 観察 (2) 記録 6. 子どもを理解する方法② (1) 省察・評価 (2) 職員間の対話 (3) 保護者との情報の共有 7. 子どもの理解に基づく発達援助① (1) 発達の課題に応じた援助と関わり (2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 8. 子どもの理解に基づく発達援助② (1) 発達の連続性と就学への支援				
成績評価基準	受講態度やレポート課題提出状況・単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの保健	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	望ましい保育者となるために、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解するとともに健康増進を図る保健活動の意義を理解する。併せて子どもの身体的な発育・発達と保健、子どもの疾病とその予防法を理解し、他職種間の連携・協働のもとで適切な対応について理解する。				
授業概要	①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。 ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び、適切な対応について理解する。 ③子どもの保健衛生活動に関連する機関・施設の役割について理解する。				
授業計画表	1 子どもの心身の健康と保健の意義 2 子どもの健康に関する現状と課題 3 地域における保健活動 4 子どもの身体的発育・発達と保健 5 子どもの健康状態とその把握 6 子どもの保育環境と養護 7 子どもの疾病と予防及び適切な対応①：症状別対応 8 子どもの疾病と予防及び適切な対応②：感染症、感染症の予防 9 子どものアレルギー疾患 10 子どもの虐待防止 11 急病時、傷害時における応急処置 12 保育における健康・安全管理 13 慢性疾患や障害のある子どもの保育と対応 14 保護者への子育て支援と地域の関係機関との連携 15 学生自身のリフレクション				
成績評価基準	レポート課題・科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「こどもの保健」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭(38年) ※上記の経験を持つ教員により、保健活動の意義や発育、発達によるこどもの健康状態の把握、また子どもの疾病と予防などを学ぶ。				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの食と栄養	授業区分	演習 講義	単位数	2														
授業目標	ヒトが人間らしく生きていくために何をどのように食べるべきなのかという基本を理解し、それをどのような具体的な形で、こどもたちに伝えていくのかということ理解し考える。 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。 2. こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義実践について理解する。 3. 食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解し、食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、それを活かして活用するための力をつける。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。																		
授業概要	1. レポート課題・単位認定試験出題課題を中心に、テキスト・参考図書だけではなくより広い視点からこどもの食と栄養について深く理解する。 2. スクーリングを通して学習成果に対する学習の理解を深め、実践力をつける。 3. 普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、質問用紙等を活用して向上心を持って高い資質を身につける。																		
授業計画	<table><tr><td>1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解</td><td>8. 栄養の基本的概念と栄養素についての理解</td></tr><tr><td>2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解</td><td>9. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解</td></tr><tr><td>3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解</td><td>10. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期</td></tr><tr><td>4. こどもの食生活の現状と課題についての理解</td><td>11. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期</td></tr><tr><td>5. 食育実践のための基礎知識</td><td>12. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期</td></tr><tr><td>6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備</td><td>13. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容</td></tr><tr><td>7. 特別な配慮を要するこどもへの対応</td><td>14. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法 15. 特別な配慮を要するこどもへの支援</td></tr></table>					1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解	8. 栄養の基本的概念と栄養素についての理解	2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解	9. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解	3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解	10. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期	4. こどもの食生活の現状と課題についての理解	11. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期	5. 食育実践のための基礎知識	12. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期	6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備	13. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容	7. 特別な配慮を要するこどもへの対応	14. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法 15. 特別な配慮を要するこどもへの支援
1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解	8. 栄養の基本的概念と栄養素についての理解																		
2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解	9. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解																		
3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解	10. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期																		
4. こどもの食生活の現状と課題についての理解	11. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期																		
5. 食育実践のための基礎知識	12. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期																		
6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備	13. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容																		
7. 特別な配慮を要するこどもへの対応	14. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法 15. 特別な配慮を要するこどもへの支援																		
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） 成績評価:受講態度や科目試験の結果により総合的に判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）																		
使用テキスト等	「こどもの食と栄養」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)																		
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年)、病院・乳児院(栄養士通算29年)の勤務歴。 保育士6年、 ※上記の経験を持つ教員により、こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義・実践、食育を行うための基礎知識や食育を行うための地域社会との関わり等について学ぶ。																		

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育課程論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する。 2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、意義や方法を具体的に習得する。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程についてその全体像を能動的にとらえ、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。 4. 保護者や関係機関との連携について学ぶ。				
授業概要	幼児、こどもを育てる上で、大切なこと(目標)、どのような方法・手立て(方針)、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。				
授業計画	1. 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方、意義と必要性 2. カリキュラムの基礎理論 3. 日本における教育課程・各国の教育課程の変遷 4. 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方、編成と評価 5. 教育課程の法と行政 6. 学習指導要領の変遷とその特色 7. 園生活と長期・短期の指導計画 8. 教育課程・保育課程編成の実際 9. 保育の基本と実践(記録及び省察による教育・保育の質向上) 10. 学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム 11. 明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史 12. 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性 13. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷 14. 教育課程をめぐる諸問題 15. 信頼される園づくりと学校評議員制度				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用い行う) 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「教育課程論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育内容総論	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。				
授業概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。				
授業計画	- 保育の全体的構造 - 育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 - 領域の考え方と乳児保育の領域 - 保育内容の歴史的変遷 - 変遷にみる特徴 - 変遷にみる課題 - 養護と教育の一体的展開 - 養護的なかかわりと教育的なかかわり - 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 - 乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 - 保幼小の円滑な連携 - 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 - 環境を通して行う保育 - 遊びによる総合的な保育 - 全体的な計画の作成と指導計画の作成 - 全体的な計画の作成 - 指導計画の作成手順と配慮 - 保育の評価と保育の記録 - 幼児理解に基づく評価 - 観察記録を書く意味と幼児理解 - 保育内容の現代的課題について - 子育て支援 - 多文化共生保育				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「保育内容総論」（最新版）（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「健康」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場で子どもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容についていかに指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、子どもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。 乳幼児の健康づくりに関わる重要な要素について理解し、計画性を持って保育現場で応用ができるような知識・知力を養うことを目標とする。				
授業概要	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康づくり指導を目指す。				
授業計画	1. 領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）、保育の意義と児童観 ・こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」 5. 子どもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 ・発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解 2. 乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 ・発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本 6. 安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練 ・情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解 3. 子どものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン・子どもの健康と虐待 7. 健康と自然環境、園外保育の活動内容 ・園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解 4. 基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点 ・食育に関する指導案作成と幼児の健康 8. 保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ				
成績評価基準	成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「人間関係」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションがなされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をととした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。 1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できる。 2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。 3. 養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。				
授業概要	こどもを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをととした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。 また、保育者としてどのようにこどもの人とかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係について考察していく。				
授業計画	1. 領域「人間関係」 ・ねらいと内容及びその取扱い ・保育者としての役割 2. 保育者としての環境作りと評価 ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む） ・保育構想と指導案（模擬保育） 3. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助① ・対人意識、自己概念の発達 ・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫 4. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助② ・個と集団の育ちの姿 ・こどもの心の拠り所である保育者の工夫 5. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③ ・人とかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 ・集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫 6. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ ・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点 7. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤ ・こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割 ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育） 8. 地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）				
成績評価基準	成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「環境」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解する。 2. こどもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。 3. 保育者の役割を常に考え、保育実践力をつける。				
授業概要	こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を挙げて学習していく。また、グループ学習を含め、視聴覚機材を使用し、より深く学んでいく。				
授業計画	1. 環境とは (1)環境の定義 (2)環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ (1)ねらいと内容 (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 3. 身近な環境の構成(指導案の構成と作成) (1)指導案の作成による人的環境・物的環境の理解 (2)視聴覚教材を利用した自然環境、社会・文化環境の理解 4. 保育における環境の重要性と小学校との連続性 (1)好奇心・探究心 (2)思考力の芽生え 5. 保育環境のデザイン (1)視聴覚教材を利用した室内・室外環境の理解 (2)指導案作成(実際の指導案作成とデザインを図示指導)と模擬保育の振り返りによる保育環境理解 6. 保育者の3つの役割 7. さまざまな環境との出会い (1)標識・文字との出会い (2)数量と図形・ものの性質との出会い 8. こどもの遊びの世界における「3間」の意味と保育の課題(小学校との連携等)				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「言葉」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1. 乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とする。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢・態度、小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。 3. 言葉遊び(わたべうた・なぞなぞ等)、文字体験(カルタ・標識・ごっこ遊び)等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉のもつ美しさ、楽しさを認識し、理解することを目的とする。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居等のイメージーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の獲得のあり方について認識し、理解することを目的とする。 5. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、年齢別のコミュニケーションを図ることができるようになる。 6. こどもが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解する。 7. 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。 8. こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方認識できるようになる。 9. 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解する。				
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。				
授業計画	1. 幼児教育と言葉 ・言葉とは何か・生活と言葉(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 ・領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 ・領域「言葉」指導上の留意点と評価 ・0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 3. 言葉を豊かに育む活動(1) ・言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 ・わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育 4. 言葉を豊かに育む活動(2) ・言葉から文字へ、文字による環境 ・文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作(情報機器活用及び教材の活用)及び模擬保育体験 5. 保育者と言葉のあり方 ・言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 ・外国のこどもとの対応 6. 言葉を豊かに育む活動(3) ・言語教材としての絵本の意義 ・絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成 7. 言葉を豊かに育む活動(4) ・絵本、お話等の指導法と情報機器の利用 ・絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育 8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「造形表現」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。				
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。				
授業計画	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領） 2. 形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴 3. こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価 4. 教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく） 5. 教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる） 6. 教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび） 7. 実践的な指導法（模擬保育等）の学習（えがく・つくる・造形あそび） 8. えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）と情報機器及び教材の活用 まとめ				
成績評価基準	成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）				
使用テキスト等	「造形表現論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「音楽表現」	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。 感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに、音楽表現活動に必要な知識を習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。				
授業概要	領域「表現」は、幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。				
授業計画	1. 領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解、表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践 2. 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解と表現活動における伴奏の方法と実践 3. 身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法、サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法 4. 声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法 5. 映像を活用した 0、1、2 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 6. 映像を活用した 3、4、5 歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践、乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法 7. 「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践と指導法 8. 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 9. 指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究 10. 指導案作成における環境構成及び保育者の援助の確認と模擬保育の留意点 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践 11. 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践 12. 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議、弾き歌いと伴奏法の実践 13. 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議、弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践 14. ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 15. 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ				
成績評価基準	科目の成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）				
使用テキスト等	「こどもと音楽表現」（配本テキスト） 「音楽表現論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				
実務経験がある教員による授業科目	幼児リトミック指導（通算11年）、米国にてリトミック・ソルフェージュ・合唱指導（7年）小学校合唱部指導（2年） ※上記の経験を持つ教員により、領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに、音楽表現活動に必要な知識と実践力を高める授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもと造形	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。 《学習成果》 1.乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。 2.えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 3.教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。				
授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。				
授業計画	1. 幼児造形教育の重要性と研究の視点について 2. 幼児造形(表現)の特徴・領域・道筋について 3. えがく領域に伴う製作Ⅰ(えがく活動における指導・援助と実際) 4. つくる領域に伴う製作Ⅱ(つくる活動における指導・援助と実際) 5. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ(造形遊びにおける指導・援助と実際) 6. 作品の研究及び発表 7. 幼児造形教育の課題について 8. まとめ				
成績評価基準	成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する 評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「造形表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	表現とこどもの運動	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	こども達が自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解し、その手立てを身に付ける。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを、発達段階に沿って展開させることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める。				
授業概要	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。				
授業計画	1. 社会的背景を考慮しつつ ①運動遊びのねらい ②運動遊びの援助について(個別の支援計画等) 2. こどもの発達と運動について ①身体・形態・機能・こころの発達発達 ②こどもと運動 3. 運動遊びの基本的な動き ①基本運動(歩・走・跳・投・押・引・転・登) ②運動表現の要素(調整力:身体認知・空間認知) 4:身体コントロール能力の向上 ①調整力中心の体づくり運動 ②音・色などの刺激に対応する運動 5. こどもの表現運動Ⅰ ①表現運動実施の教育的意義 ②身体表現運動とは 6. こどもの表現運動Ⅱ ①身体表現運動のねらい ②実施上の留意点 7. 発達段階と表現運動の実践(表現運動遊びの実践) ①年齢別発達における表現遊び(表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等)				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「表現とこどもの運動」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	乳幼児保育 I	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 乳児保育の意義、目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
授業概要	乳児保育の意義と目的、歴史的変遷及び役割、現状と課題について理解する。 また、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、運営体制、職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
授業計画表	1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 9 3歳未満児の生活と遊びと環境 2 乳児保育の役割と機能 10 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 3 乳児保育における養護及び教育 11 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 5 保育所における乳児保育 13 乳児保育における計画・記録評価とその意義 6 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 14 職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 7 家庭的保育等における乳児保育 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場				
成績評価基準	出席状況・授業態度・試験・レポート内容等を総合的に評価する。				
使用テキスト等	「乳幼児保育 I」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年)の勤務歴、社会福祉士の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、乳児保育の意義と目的、及び3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育内容、保護者や関係機関との連携等について授業する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	乳幼児保育Ⅱ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1. 3 歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳幼児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。				
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。				
授業計画	1. 子どもと保育士等との関係の重要性 2. 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 3. 子どもの 1 日の生活の流れと保育の環境 4. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活の援助の実践 5. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 6. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 7. 集団生活における配慮 8. 乳幼児保育における指導計画				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「乳幼児保育Ⅰ」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	保育所(保育士・園長 通算15年) 乳児院(21年)の勤務歴、社会福祉士の資格を有する。 ※上記の経験を持つ教員により、3歳未満児の発育や発達を踏まえた生活と遊び、養護の視点からの配慮等について授業する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの健康と安全	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	最近のデータや関連するガイドライン等を通して、こどもの健康・安全にかかわる保健的対応を学び、発達等に即した適切な具体的援助を学ぶ。 演習を通して、実践力を高め、具体的な対応や援助方法が保育現場で活かせるようにする。				
授業概要	1. 現代社会における子どもの健康問題や地域保健活動について理解する。 2. 保育現場における感染症・事故防止・安全対策・危機管理・災害管理について具体的に理解する。 3. 年齢に即した対応が出来るよう演習を通して身につける。				
授業計画	1. 子どもの保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 ①近年の子どもの健康と保育環境 ②集団全体(施設等)の健康及び安全管理 2. 保育における感染症対策 ①子どもの感染症発生時とり患後の対応 ②保育園での集団発生の予防 ③家庭・関係機関などとの連携 3. 保育における健康・安全の危機管理 ①衛生管理 ②事故防止・安全対策 ③災害時の備え 4. 子どもの病気とその予防、適切な対応 ①体調不良や傷害が発生したときの対応 ②応急処置 ③救急処置・救急蘇生法 5. 個別的な配慮を要する子どもへの対応 ①慢性疾患・アレルギー性疾患など ②障害のある子どもへの対応 6. 健康管理・安全管理の連携の必要性 ①職員間の連携・協働と組織的取り組み ②家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携 ③母子保健・小児保健・地域保健における自治体との連携 7. 保育における保健活動の計画および評価 8. 学生自らのリフレクション				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 参考書・参考資料等 「よくわかる・子どもの保健」 第3版 竹内義博他(ミネルヴァ書房)(ISBN:9784623073436)				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭(38年) ※上記の経験を持つ教員により、ガイドライン等を通して、こどもの健康・安全にかかわる保健的対応を学び、発達等に即した適切な具体的援助を学ぶ。				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	障害児保育	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する 3. 障がいその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する 4. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する 5. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する				
授業概要	個々の障がい特性を理解し、障がい児だけでなく、統合保育の視点で、保育者として必要な力を身に着ける。				
授業計画	1. 障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷 2. 障がいのある子どもとの統合保育と地域社会への参加 3. 差別解消と合理的配慮 4. 身体障がい児の理解と支援 5. 知的、発達障がい児の理解と支援 6. その他の障がい児の理解と支援 7. 支援体制の構築(職員間、家族、地域社会、子ども同士) 8. 障がい児のコミュニケーション 9. 障がい児と遊ぶ1 10. 障がい児と遊ぶ2 11. 障がい児保育の健康と安全 12. 統合保育の活動 13. 支援体制づくりのために 14. 障がい児の支援計画 15. 障がい児保育の現状と課題				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる) 成績評価:受講態度、科目試験の結果により総合的に判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「障害児保育」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	元児童心理司(経験3年)、現施設心理士(経験5年) ※上記の経験を持つ教員により、障がいの特性や障がいをもつ子どもの理解と支援について理解し、保育者として必要な力を身に着ける授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	社会的養護Ⅱ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する スクーリング: 社会的養護の対象の子どもを理解し、その困難を共に支えるための技術、知識、価値観を身に着ける。				
授業概要	体験的な授業で、コミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術と、ネットワーク運営のための技術を身に着ける。				
授業計画	1. 社会的養護の子どもの理解 2. 自立支援 3. 相談援助の知識と技術1(コミュニケーション) 4. 相談援助の知識と技術2(リーダーシップ) 5. 相談援助の知識と技術3(コーチング) 6. ネットワークの知識と技術1(ディスカッション) 7. ネットワークの知識と技術2(チームビルディング) 8. 社会的養護の課題と展望				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	重度身障者入所授産施設指導員(3年)、乳児院(指導員8年、副院長歴5年、院長15年、会長6年) ※上記の経験を持つ教員により、社会的養護に関わる理解と相談援助の方法、家庭支援等に関する授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	子育て支援	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供・行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。 スクーリング:子育て支援の実施について事例を通して具体的に理解する。保育相談支援の基本を学ぶ。				
授業概要	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。				
授業計画	1. 保育所の特性を生かした子育て支援 2. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 3. 保育所を利用している保護者に対する子育て支援 4. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 5. 保育士の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 6. 地域の子育て家庭に対する支援 7. 子どもの虐待の予防と対応 8. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解				
成績評価基準	科目の成績評価:スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育実習Ⅰ（保育所・施設）	授業区分	実習	単位数	4
授業目標	初めての保育所実習、施設実習に対応できるように正しい知識や、実習態度を養い、保育の現場を体験して、子どもの姿や環境、保育士の仕事について理解する。見学、観察実習、参加実習、部分実習を通して、こども理解に努め、保育の全般について理解をする。乳幼児の発達についてより良く理解する。				
授業概要	保育所実習・施設実習				
授業計画	実習期間 保育実習Ⅰ：1月末～2月初め（10日間） 施設実習：9月～10月（10日間） 実習内容 観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習評価表、実習態度等総合的に評価をおこなう。				
使用テキスト等	「保育実習指導」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 参考書・参考資料等随時資料配布				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育実習指導 I	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園・児童福祉施設のそれぞれの意義を知る。 2. 実習の流れと実習の心得を学ぶ。 ①実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)を学ぶ。 ②社会人のマナーや、ほうれんそう(報告・連絡・相談)の重要性を知る。 3. 実習の目標・実習課題を学ぶ。 ①実習課題の設定の仕方を学ぶ ②指導案の意味と立て方を学ぶ ③実習日誌の書き方を学ぶ 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題・目標を設定する。				
授業概要	実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、子どもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得えをテキストを中心に学び、自分の実習課題を考える。(演習)保育指導案・実習日誌の書き方を学ぶ。事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行い新たな課題や目標を設定する。				
授業計画	1. 実習の意義・目的を理解する 2. 保育所とは何か、その現状と課題 3. 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 4. 保育所の職場構成と連携 5. 社会人のマナー「報告・連絡・相談」の重要性 6. 乳幼児の年齢別発達の特徴 7. 緊急時の対応(ケガ・地震・火事等)、事故予防について 8. 実習の種類(参観実習・参加実習・責任実習)とは何か 9. 実習日誌の書き方・保育指導案の立て方 10. 保育技術の利用 絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等 11. 児童福祉施設の種別および特徴 12. 社会的養護の原理・原則および支援について 13. プライバシーの保護と守秘義務 14. 児童福祉施設その他職種および他機関との連携の仕方 15. 事後学習 実習の総括と自己評価 新たな課題や自己目標の明確化				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼稚園教諭(6年)、保育所保育士(13年)、幼保連携型認定こども園(主幹教諭・副園長通算5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行い、保育実習の意義・目的理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもとより、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育・教職実践演習	授業区分	講義 演習	単位数	2
授業目標	授業で学んだ学習知と教育実習で得られた実践知を統合し、確かな実践的指導力を身に付ける。				
授業概要	これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。				
授業計画	1. 教師という職業 2. 学級経営 3. 特別支援教育の基礎 4. 特別支援教育と教師・保育者 5. 保育における集団の編成 6. 幼児教育の将来的展望 7. 幼保小連携 8. ガイダンス 9. 学級経営における臨床場面での教師の対応Ⅰ（ロールプレイング） 10. 保育場面での対応（事例研究）課題のある子ども（幼児）の事例研究 11. 集団討論Ⅰ「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」 12. 保育計画と模擬保育 13. 統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望 14. 「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方 15. 学習のまとめ・自己の振り返り・今後に向けての課題				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：集団討論や科目試験の結果により総合的に判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） ※科目試験 50%、実技 50%の平均により成績評価を行う				
使用テキスト等	「保育・教職実践演習」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育方法論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	授業のテーマおよび学習成果 教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育(保育)現場における様々な課題を解決する教育(保育)方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。				
授業概要	教育方法の定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することをおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。後半では、幼児教育(保育)の方法、並びに小学校教育との連続について考察する。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討する。				
授業計画	1.教育方法の定義・意義と守備範囲 2.教育方法の歴史的展開1(西欧の教育方法) 3.教育方法の歴史的展開2(近・現代の教育方法) 4.教育方法の歴史的展開3(日本の教育方法) 5.教育技術の革新と情報機器の活用 6.教材・教具の理解と活用 7.特色ある授業実践 8.教育現場における授業技術 9.授業分析と授業評価 10.授業展開の構想 11.幼児の理解と幼児教育(保育)の方法(生徒指導との関係も踏まえて) 12.近代以降の幼児教育(保育)方法 13.幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 14.幼児教育(保育)内容と小学校の教育内容 15.教育方法の課題と展望				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用いて行う) 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用いて行う)				
使用テキスト等	「教育方法論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	小学校勤務(教諭・教頭・校長 通算29年)、文部教官(6年)、教育センター(指導主事・主任主事通算5年) ※上記の経験を持つ教員により教育方法の定義と意義、学習指導の理論と授業の方法、および評価等について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの理解と相談支援	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学ぶ。また、その対応の一つの幼児教育現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指す。個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指し、この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。				
授業概要	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める				
授業計画	1. こどもの実態に応じた発達や学びの把握 2. 相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本とカウンセリングの基本的な方法 3. こどもを理解する視点① （こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験） 4. こどもを理解する視点② （葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行） 5. こどもを理解する方法① （知能検査・発達検査・行動観察法、他） 6. こどもを理解する方法② （観察・記録・省察・評価） 7. こどもを理解する方法③ （職員間の情報共有、保護者との情報共有） 8. こどもの自己理解を進める技法 9. 幼児・こども理解とカウンセリング・マインド 10. 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援 11. 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援 12. 相談支援の実際① （発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち） 13. 相談支援の実際② （不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント） 14. 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援（幼・小の連携、親との連携） 15. 相談支援の課題と対応 （教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成）				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「こどもの理解と相談支援」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				
実務経験がある教員による授業科目	相談員・カウンセラー（30年） 小学校・大学・専門学校講師（通算32年） ※上記の経験を持つ教員により、相談支援の基本、子ども理解の視点と方法、幼稚園や小学校における子どもへの心理的援助や保護者支援に関する授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	言葉とこどもの文化	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	本授業は、保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財がこどものことばの習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし等の児童文化財を利用しての言葉の理解を目的とする。				
授業概要	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解する。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深める。				
授業計画	1. ことばの機能と言葉の発達 ・人間とことば、幼児とことば ・乳幼児期のことばの発達と保育者の役割 2. 領域〈言葉〉のねらい及び内容 ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領 3. ことばを育てる児童文化財① ・児童文化財とは ・絵本 4. ことばを育てる児童文化財② ・紙芝居 ・おはなし 5. ことばを育てる児童文化財③ ・ペープサート ・シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど） 6. ことばを育てる児童文化財④ ・ことばに対する感覚を養う児童文化財 ・わらべうたあそび、ことばあそび 7. ことばを育む教材 ・ことばを育む教材の範囲 ・ことばを育む教材研究 8. 保幼小連携について				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「言葉とこどもの文化」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	特別支援教育	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	特別な教育的ニーズを有する子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。				
授業概要	特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子供自身の特性を理解するのはもちろん、子供を支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。				
授業計画	- 特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程 ①特別な教育的ニーズとは何か②特別支援教育課程と学びの場 - 発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性 ①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち②子供一人ひとりのニーズに合わせた学び - 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子供の特性 ①多様な子供のニーズの理解②多様な子供の学びと生活 - 子供のニーズに合わせた支援 ①教育課程における支援②通常学級における担任による支援 - 教育チームによる組織的支援 ①個別の指導計画及び個別の教育支援計画②アセスメントに基づく計画と評価 - 特別支援教育コーディネーター ①特別支援教育コーディネーターの役割②外部教育資源との連携と協働 - 保護者・家庭支援と連携 ①保護者・家庭をとりまく問題②保護者・家庭とのつながりの重要性 - 特別な教育的ニーズを考える ①母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（ルーブリック評価を用いて行う） 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（ルーブリック評価を用いて行う）				
使用テキスト等	「特別支援教育」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育心理学	授業区分	講義 演習	単位数	2
授業目標	教育心理学は、教育と乳幼児期から青年期における人の発達について心理学的に理解していく学問である。本講義では、発達に関する代表的な理論を踏まえた上で、教育における発達の意義と理解を土台にして、子どもの主体的な学習を支える動機付け、指導方法と実践活動について学びを進めていく。取り囲む人的物理的な環境との相互作用により育ちゆく子ども達にとって、重要な集団作りと評価についても取り扱っていく。基礎的な知識を十分に理解した上で、その内容を子どもの育ちを支える教育・保育実践に活かす力を修得していく。				
授業概要	教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達の特徴や遊びを通じた変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。				
(授 業 計 画	1. 教育心理学を学ぶ意義 ①教育心理学における発達、学習、適応、評価と測定 ②教育心理学の四大領域を学ぶ意義 2. 発達の考え方とその理解 ①生涯発達心理学の概念 ②各段階における発達の特徴(運動、言語、認知、社会発達) 3. 学習の仕組み ①連合説と認知説 ②様々な学習理論の応用 4. 主体的な学習を支える「やる気」 ①内発的動機付けと外発的動機付け ②学習性無力感と自己効力感 5. 集団での学習とその評価 ①学習指導の形態 ②評価の仕方とその意義 6. 動機付けからみる発見学習の仕組み ①発見学習の手続き ②発見学習により動機付けが高まる理由 7. 教育心理学に基づく保育実践 8. 発達課題に応じたかかわり ①各段階の発達の特徴 ②エリクソンの発達課題 9. 子どもから大人への思考様式の変化 ①ピアジェの認知発達理論 ②思考発達段階ごとの特徴 10. 学習を支える記憶 ①感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ②単純記憶から複雑記憶への変化 11. 子どもの学びの姿 ①日常生活からみる学習理論 ②オペラント条件付けを利用した保育実践 12. 子どものやる気を引き出す指導の在り方 ①指導者の態度(ピグマリオン効果) ②様々な学習形態とその効果 13. 子どもの遊びの重要性 ①遊びの変化 ②遊びを通じた社会性の発達 14. 子どもと道徳 ①幼児期に迎える第一次反抗期と自立 ②道徳の指導方法 15. 教育心理学を用いた環境づくり				
成績評価 基準	学習状況の確認:レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する(評価はルーブリック評価を用い行う) 成績評価:制作や授業態度、科目試験の結果により総合的に判定し評価する(評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「教育心理学」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「リズム表現」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。 表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。 保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域、造形表現的領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も合わせて習得する。				
授業概要	幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく				
授業計画	- 領域「表現」についての基本的な考え方 ① 幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察 ② 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉え方と評価 - 基礎リズム ① 歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点 ② 幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解 - 基本動作 ① 幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践 ② 観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践 - タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 ① 童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振り付けの実践 - 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 ① 楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用 ② オリジナル楽器を使った指導案の作成 - 領域「表現」と小学校教科等のつながり ① オノマトペ(擬態語・擬音語・擬声語)の表現方法について ② 領域「表現」と小学校教科等とのつながり - 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り ① 絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践 - リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り ① 幼児の表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作 ② 創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践				
成績評価基準	成績評価: 受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼児リトミック指導(通算11年)、米国にてリトミック・ソルフェージュ・合唱指導(7年) ※上記の経験を持つ教員により、領域「表現」における表現遊びを展開するために必要な知識や技術を理解し、保育指導法を修得していく授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	人間関係論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。				
授業概要	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。				
授業計画	1. 領域「人間関係」 ・ねらいと内容 ・領域の相補性（保育活動の総合性とは） 2. 人間関係と取り巻く社会環境① ・少子高齢化 ・家族の変化 3. 人間関係と取り巻く社会環境② ・身近な環境の変容 ・メディアの変化 4. 人間関係をつむぐこどもの発達 ・規範意識と道徳性の芽生え（育ち） ・ルール、決まり事の意味と意義 5. 人間関係をつむぐこどもの発達 ・自立心、協同性の芽生え（育ち） ・自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち） 6. 人間関係とこどもの遊び ・遊びの中で育つ乳児の人間関係 ・遊びの中で育つ幼児の人間関係 7. 人間関係とこどもの生活 ・家庭とのかかわりとこどもの発達 ・地域とのかかわりとこどもの発達 8. 今日的な人間関係の課題（多様な文化のこどもと気に留めたいこども）				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。（ルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。（ルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「人間関係論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	環境論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	1. 乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考える 2. 環境を通して行う保育の意味を知る 3. 保育環境のデザインを実践できる 4. 様々な環境との出会いを理解する				
授業概要	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、それらとこどもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要がある。そのために様々な環境との出会いに気づき、それについて深く学ぶ。				
授業計画	1. 環境の定義 ①環境という言葉、環境の定義 ②環境を通して行う保育の意味 2. 領域「環境」の位置づけ ①ねらい・内容 ②内容の取扱・指導計画 3. 保育における環境(保育と環境) ①人的環境・物的環境 ②自然環境、社会・文化環境 4. 幼児の身近な環境との関わり ①室内・室外 ②文字・標識・数量・図形 5. 行事 ①季節の行事 ②地域の行事 6. 地域・施設との関わり ①各施設の訪問 ②国際理解 7. 地域探検 ①住んでいる町を知ろう 8. 保育者としての専門性の向上 ①専門性の向上 ②保育マインドの向上				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「環境論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	健 康 論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	領域「健康」の指導に関する乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての理論的学習を身に付ける。				
授業概要	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と体の基礎をつくる重要な時期である。幼児期の運動発達における大人との相違について映像資料や事例を活用し、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。また、乳幼児期の子どもたちの健康に対する知識と発達発達について学ぶ				
授業計画	1. 乳幼児と健康 ・乳幼児期の心と体の発達と健康課題 2. 乳幼児期の諸機能の発達と健康課題 ：健康の定義と乳幼児期の健康の意義 3. 乳幼児期の体の発達的特徴 ・乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義 4. 乳幼児の安全教育に関する基本的な考え方 ・乳幼児の健康管理に関する基本的な考え方 5. 乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防 ・乳幼児の危険に関するリスク・ハザード 6. 乳幼児期の運動発達の特徴 ・乳幼児期の生活・遊びと安全管理 7. 乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義 ・日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮 8. 乳幼児の身体活動の在り方				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる）				
使用テキスト等	「保育内容 健康」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版) (フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) (フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもの指導法「言語表現」	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。 乳幼児期の発達に応じた言語表現活動の指導法について述べることができる。言語表現活動をするための基本的な知識を身につけ実践することができる。				
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。				
授業計画	- こどもの言語表現指導法と指導案の作成 - 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 - 言語表現の指導法及び指導案の作成 - 児童文化財による乳幼児の言語表現活動 - 言語表現活動の意義と範囲 - 言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法 - 言語表現が豊かになる児童文化財の指導 - 絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 - わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点 - 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(1) - 絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法 - 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(2) - 絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成、模擬保育と評価方法・振り返り - 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(3) - わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 - 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導(4) - わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法、模擬保育と振り返り - 年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「保幼小連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	公立小学校勤(教諭・教頭・校長通算25年)、文部教官(9年)、教育委員会・教育センター(国語科指導主事等 通算16年)、県国語科研究会会長等を歴任 ※上記の経験を持つ教員により、子どもの言語表現の指導法について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	造形表現論	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。 3. 乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。				
授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。				
授業計画	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習 2. こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義 3. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの特徴と指導、援助、評価 4. えがく活動における形態・色彩の理論 絵画技法、製作内容と材料・用具 5. つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材(廃材)、製作内容と材料・用具 6. 造形あそびにおける各種表現技法、製作内容と材料・用具 7. 実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用 8. 美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめ				
成績評価基準	学習状況の確認: レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いて行う） 成績評価: 科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いて行う）				
使用テキスト等	「造形表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こどもと体育	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。 《学習成果》 1. こどもが主体的に遊びに取り組める援助方法を習得する。 2. 演習で取り扱う運動遊びと成長発達の関係を理解する。 3. 運動遊びと運動機能・体力の関係を理解する。 4. 演習で取り扱う運動遊びを習得する。 5. 運動遊びを楽しく、安全に実施する環境づくりを学ぶ。 6. 運動遊びで培われる体と心、社会性を理解する。				
授業概要	発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。				
授業計画	1. オリエンテーション(講義) ①自然での遊び(水遊び、雪遊び等) ②戸外、森などでの遊び 2. 固定遊具の遊び ①すべり台、ジャングルジム ②ぶらんこ、シーソー 3. 遊具を使った遊びⅠ ①小さいボール、柔らかいボール ②大きいボール、様々なボール 4. 遊具を使った遊びⅡ(身近な遊具) ①フープ、輪、ロープ ②新聞紙、タオルなど 5. 大型遊具を使った遊び ①マット、平均台、跳び箱運動 ②複数の遊具の組み合わせによる運動 6. サーキット遊び ①小型遊具を組み合わせたサーキット遊び ②大型遊具を組み合わせたサーキット遊び 7. 身体の実現による伝承遊びⅠ(遊具を使わない) ①鬼遊び、わらべ歌など(小身体活動) ②ケンケンパー、馬跳びなど(大身体活動) 8. 身体の実現による伝承遊びⅡ(遊具を使った) ①おはじき、独楽遊び、お手玉遊び、けん玉遊び等				
成績評価基準	績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用いる)				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	音楽表現論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	感性と表現に関する領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付ける。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。また、子どもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的知識を身に付ける。さらに家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得する。				
授業計画	1. 領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程、音楽表現の基礎知識 ・音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解 2. 「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解 イメージを表現する為の音や音階の理解 3. 日本のこどもの歌と歴史的背景の理解時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析 4. 領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解 ・身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践 5. 保育実践における豊かな表現を引き出す援助(手法)のあり方についての理解 ・幼児用楽器の取扱いと正しい演奏法の理解と実践 6. 部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案 ・身近な自然や身の周りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実践 7. 乳幼児の音楽表現を可視化するための手法と理解 ・ポートフォリオなどを活用した保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音(コード)で表現する方法の理解と実践 8. 家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ ・園行事等での器楽演奏を表現豊かなものにするための理解と実践				
成績評価基準	学習状況の確認:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う） 成績評価:科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）				
使用テキスト等	「音楽表現論」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育実習Ⅱ	授業区分	実習	単位数	2
授業目標	保育所保育実習 2 回目で、乳幼児に対する理解、保育方法を基に積極的に子どもと関わり、保育方法、内容について更に理解を深め、積極的に実習に臨む。特に保育士の仕事等積極的に学ぶようにし、部分保育を積極的に行うようにする。 乳幼児との関わりを通して、こどもの気持ちを理解し、より良い援助の仕方を学ぶ。 保育者になる意識をもって積極的に実習に臨み、保育者としての意識を高めて欲しい。				
授業概要	保育所実習				
授業計画	保育所実習 実習期間 10月～11月初め（10日間） 実習内容 部分実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園での成績評価を基に総合的に評価する。				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 幼稚園教育実習簿(配本) その他、その都度資料を準備する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育実習Ⅲ	授業区分	実習	単位数	2
授業目標	保育所施設実習 2 回目で、児童福祉施設に暮らす子どもに対する理解、保育方法を基に積極的に子どもに関わり、保育方法、内容について更に理解を深め、積極的に実習に臨む。 特に施設種により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なるが、保育士の仕事等積極的に学ぶようにし、部分保育を積極的に行うようにする。 乳幼児との関わりを通して、こどもの気持ちを理解し、より良い援助の仕方を学ぶ。 保育者になる意識をもって積極的に実習に臨み、保育者としての意識を高めて欲しい。				
授業概要	保育所(施設)実習				
授業計画	保育所(施設)実習 実習期間 10月～11月初め（10日間） 実習内容 部分実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園での成績評価を基に総合的に評価する。				
使用テキスト等	「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 幼稚園教育実習簿(配本) その他、その都度資料を準備する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育実習指導Ⅱ	授業区分	実習	単位数	1
授業目標	1. 保育実習Ⅱの目的は、保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、環境構成の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨くことにある。 2. 今まで大学で学習した知識をどのように使いながら保育をしていくのかを学び、実践力と専門性を高める。 3. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				
授業概要	保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられる事をねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で生かせるように準備する。 また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。				
授業計画	1. 保育実習Ⅰの振り返りと実践的な自己課題の決定 2. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(1) 子どもの発達、5領域のねらいと現場での視点 3. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(2) 子どもの基本的生活習慣の獲得と保育支援 4. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(3) 遊びを展開するための知識等と環境設定の技術 5. 保育知識のおさらいと実習で身に付けてきてほしいこと(4) 子どもの心に寄り添うとは何かについて 6. 保育知識と実習で身に付けてきてほしいこと(5) 環境構成の技術と人間関係構築の技術 7. 責任実習に向けての保育指導案の立案の仕方と実施のための留意点 8. 実習上の諸注意のまとめ(含む、保育者としての倫理、守秘義務、プライバシーの保護)				
成績評価基準	成績評価:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	幼稚園教諭(6年)保育所保育士(13年)認定こども園(主幹教諭等5年) ※上記の経験を持つ教員により授業を行う。実習の意義・目的を理解し、実習の流れと心得を体験しながら、実習課題を考える。保育指導案・実習日誌の書き方はもちろん、事後指導では、実習の振り返り・自己評価を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育実習指導Ⅲ	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	1.児童福祉施設における保育者の専門性について理解する。 2.児童福祉施設に暮らす子どもや親について理解する。 3.児童福祉以外の社会福祉施設について知る。 4 児童福祉・障害者福祉における保育者の役割等を理解する。 5.施設内の連携、他機関との連携について理解する。 6.実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				
授業概要	施設により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なる。自分の行く実習施設を中心に事前レポート、事後レポートなどで学習する。				
授業計画	1. 児童福祉施設の理解 ・施設の現状と問題点について 2. 社会的養護の現状について 3. 自分の行く実習施設を中心とした実習施設の現状と問題点 4. 児童福祉施設におけるこども支援、親支援の現状について(保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考える) ① 乳児院・児童福祉施設等への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際 ② 障がい（児・者）の障がい特徴と支援上の留意点 5. 社会的弱者の基本を知る (1)マライゼーションの意味を理解し、どのような支援を通して実践しているかを知る 6. 社会的弱者支援の基本を知る(2) 人権の保護とエンパワーメント（人権侵害とは何か）について知る 7. 個別支援計画と他機関との連携について 8. 事後指導における実際の総括と評価				
成績評価基準	成績評価:レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する				
使用テキスト等	「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育実習 I	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	マナーを守り、意欲的に取り組むこと。幼児の「前に立つ」ための準備をして、実習に臨むこと。実習日誌に、各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができること。幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できること。幼児の姿を観察し、場面の記録を描くことができること。				
授業概要	実際に幼稚園の生活を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。				
授業計画	実習期間 6 月末～7月初め（10 日間） 実習内容 観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園による評価及び実習日誌を、総合的に評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提とする。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 幼稚園教育実習簿(配本テキスト)				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育実習Ⅱ	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	マナーを守り、意欲的に取り組むこと。幼児の「前に立つ」ための準備をして、実習に臨むこと。実習日誌に、各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができること。幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できること。幼児の姿を観察し、場面の記録を描くことができること。				
授業概要	実際に幼稚園の生活を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。				
授業計画	実習期間 9月（10日間） 実習内容 部分実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習園による評価及び実習日誌を、総合的に評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提とする。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 幼稚園教育実習簿（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育実習指導	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。 教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。				
授業概要	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標を持って実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。				
授業計画	1. 実習の意義と目的 ・幼稚園教育の特長 ・実習の意義と目的 ・保育者としての倫理(守秘義務 職務に専念する義務 等) 2. 教育実習の流れと手続き、その内容 ・実習生としての心構え ・事前相談・打ち合わせ 3. 観察・参加・責任実習 ・長期指導計画・短期指導計画 ・子どもを取り巻く環境(環境構成) ・幼児理解と保育 4. 教師の援助 ・保護者理解と支援 ・特別な支援を要する子どもへの対応 5. 実践演習 ・手遊び、読み聞かせ 6. 指導案作成(1) ・指導案とは何か 7. 指導案作成(2) ・指導案作成の実際 8. 実習の総括と評価、課題の明確化 ・幼児理解と学び ・保育者の活動からの学び				
成績評価基準	成績評価:受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う) ※事前指導指導で合格すれば、教育実習要件の1つ満たす。事後指導において、成績評価を行う。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」(配本テキスト) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員(教諭・校長 通算33年) 教育センター指導主事(5年) 幼稚園長(3年) ※上記の経験を持つ教員により、教育実習の意義と内容、教師の援助と環境構成、保育指導案の作成等について学ぶ。実習後は実習の総括を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	総合的な学習の時間の指導法	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。 (1) 総合的な学習の時間の創設の意義と原理について理解する。 (2) 総合的な学習の時間の教育課程において果たす役割と教科を越えて必要となる資質・能力について理解している。 (3) 学校において目標および内容を定める際の考え方を理解している。 (4) 主体的・対話的で深い学びを実現できる単元計画の重要性を理解し、探究的な学習を実現するための具体的な方策を理解している。 (5) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解している。				
授業概要	本授業は、①総合的な学習の時間の意義と原理、②総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方、③総合的な学習の時間における指導計画、④総合的な学習の時間の指導と評価の4つの内容で授業を構成し、変化の激しい社会に対応して「生きる力」をはぐくむために自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断して行動できる子どもを育成する指導方法について概説する。具体的には横断的・総合的な学習、探究的な学習などに主体的、創造的、協同的に取り組むことができるようにするための学習指導の基本的な考え方、目標、育てようとする資質や能力及び態度と内容の関係、評価、行内組織の整備などについて学修する。				
授業計画	- 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割 - 我が国における「総合学習」の歩み - 総合的な学習の時間の目標の構成、目標の趣旨・子どもの思考の総合性と社会変化への対応能力の全体性 - 学校において定める目標、育てようとする資質や能力及び態度と内容の関係 - 総合的な学習の時間の計画・実践・評価のプロセス - 横断的・総合的な学習や探究的な学習の在り方と学習原理 - 総合的な学習の時間の指導計画 - 総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方 - 主体的・対話的で深い学びを実現する単元構成の実際 - 総合的な学習の時間のテーマ設定と各教科・他領域との関連 - 総合的な学習の時間の指導と評価 - 探究的な学習指導のための校内体制の整備				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年6月 文部科学省） 総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（平成23年11月 文部科学省 国立教育政策研究所）				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員（教諭・校長 通算33年）教育センター指導主事（5年）幼稚園長（3年） ※上記の経験を持つ教員により、総合的な学習の時間の意義、ねらい、単元構成、授業展開の視点と実際について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	特別支援論Ⅰ	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	障がい児保育、教育の歴史および現在のインクルーシブ教育について、さらに各々の障がいの特徴と、その対応等について学ぶ。				
授業概要	各障がいについて、その症状と支援および障がい児支援の歴史、インクルージョン・特別な配慮を要する子どもの保育・教育を支える理念および制度について習得し、特別支援を必要とする子どもへの支援に関する基礎力の育成をめざす。				
授業計画	1. 障がい児支援を支える理念 2. 障がいとは 3. 保育所保育での障がい児保育の歴史的経緯 4. 保育所以外での福祉施設での障がい児保育の歴史的経緯 5. 保育一元化、一体化と障がい児保育 6. 日本における障がい児教育の歴史 7. 障がいの理解と支援 8. 知的障がい 9. 発達障がい 10. 肢体不自由 11. 重症心身障がい 12. 視覚障がい・聴覚障がい 13. 言語障がい 14. 病弱・身体虚弱 15. まとめ				
成績評価基準	レポート・授業態度・出席率・試験の総合評価				
使用テキスト等	特別支援論Ⅰ（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	特別支援論Ⅱ	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	発達障がいおよび軽度知的障がいの幼児及び児童に対する主な療法について学び、さらに症状別の対応について学ぶ。				
授業概要	1. 発達障がいおよび軽度知的障がいの幼児及び児童に対する主な療法について学び、さらに症状別の対応について学ぶ。 2. 特別支援教育の教育課程における通級指導、自立活動、個別の指導計画、個別の教育支援計画を学ぶ。さらに関係機関との連携体制について学ぶ。 3. 障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児及び児童の学習上又は生活上の困難とその対応を学ぶ。				
授業計画	1. 発達を支えるさまざまなアプローチ 2. 応用行動分析（ABA） 3. TEACCHプログラム 4. 感覚総合療法 5. 子どもの症状別対応 6. 発達に関して配慮が必要な子どもの家族への支援 7. 特別支援教育の理念と基本的な考え方 8. 他機関連携、個別の教育支援計画及び個別の指導計画 9. 進級による指導及び自立活動 10. 個々の発達を促す生活や遊びの環境 11. 子ども同士の関わりと育ち合い 12. 障がい児保育における子どもの健康と安全 13. 言語的、文化的な支援を必要とする児童生徒について 14. 外国人児童生徒の受け入れに関する政策 15. まとめ				
成績評価基準	レポート・授業態度・出席率状況・筆記試験の総合評価				
使用テキスト等	特別支援論Ⅱ（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	音楽Ⅰ（理論）	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	音楽を構成する最も基礎的な知識を修得し、音楽理論の学習を通して、幼児・児童の音楽授業における教材解釈、授業構想および円滑な指導に役立つ授業ができる				
授業概要	音楽を表現したり、より良く鑑賞するためには、音楽の成り立っている形(きまりごと)を知ることが必要です。実際に音楽表現するためには、まず読譜力。その基礎ルールを理解することが音楽の表現力につながります。授業は実際に自分で演奏したり記譜したりすることによって体験的に学んでいきます。				
授業計画	1 オリエンテーション 授業の進め方とガイダンス.(教室器具の使い方など) 2 楽譜の読み方（基礎楽典 1） 譜表と音名、音符と休符、リズムと拍子について① 簡単なリズム等を自分で奏する 3 楽譜の読み方（基礎楽典 2） 譜表と音名、音符と休符、リズムと拍子について② 簡単な曲を自分で記譜する 4 楽譜の読み方（基礎楽典 3） 譜表と音名音符と休符、リズムと拍子について③ 簡単な曲を自分で作曲し記譜する 5 楽譜の読み方（基礎楽典 4） 和音・コードネームについて① 様々な和音、コードネームを習得する。 6 楽譜の読み方(基礎楽典 5) 和音、コードネーム② 簡単な曲から和音、コードネームを自分で弾き確かめる。 7 楽譜の読み方(基礎楽典 6) 音程と音階について① 実際の音程や音階を記譜したりして理解する。 8 楽譜の読み方(基礎楽典 7) 音程と音階について②調の相互関係を理解し、簡単な移調を記譜し弾いて確かめる。 9 楽譜の読み方(基礎楽典 8) 楽譜・その他について。様々な音楽用語や記号を理解する 10 基礎楽典の復習テスト(中間テスト) これまでの基礎楽典の項目について総合問題を課題とする。 11 前回の中間テストの解答と説明 充分理解されていない項目の復習をする。 12 機能と和声の説明と旋律への伴奏付け(応用 1) 基本的な和声の流れを学び、簡単な旋律の伴奏付けをする。 13 機能と和声の説明と旋律への伴奏付け(応用 2) 基本的な和声の流れを学び、簡単な作曲を試みる、 14 音楽史の説明 西洋音楽史の概略.日本の歌唱や童謡の説明。 15 楽典のまとめ これまで学んできたことの復習とまとめ。				
成績評価基準	出席状況・受講態度・レポート内容・試験の結果等を総合的に評価する。				
使用テキスト等	「音楽Ⅰ（理論）」（配本テキスト） ※必要に応じ、適宜プリント教材を配布する。				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育内容総論	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	・ 保育所や幼稚園の保育内容の考え方・あり方について基礎・基本を学ぶ。 ・ 乳幼児教育の基礎・基本を理解して実際の保育ができるようになる。				
授業概要	・ 乳幼児期にふさわしい生活や保育内容の展開のあり方を具体例を通して学ばせる。 ・ 実際保育の VTR を視聴させ、乳幼児の言動・保育者の援助のあり方・環境の構成などを具体的に学ばせる。				
授業計画	1. 保育内容とは (1) 保育所・幼稚園における保育内容について 2. 保育内容の歴史と現在 (1) 保育内容の変遷 3. 子どもの発達と保育内容 (1) 子どもの発達と発達観 (2) 乳幼児期の発達の特性 4. 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 (1) 乳幼児期にふさわしい生活は 5. 保育課程と指導計画 (1) 保育を計画すること (2) 保育課程の編成 (3) 指導計画の作成 6. 保育の評価と記録 (1) 乳幼児の言動を観察・記録・考察・次の計画につなぐ 7. 保育内容の現代的課題 (1) 保護者支援 (2) 健康保育・安全保育 (3) 幼・保・小の連携				
成績評価基準	出席状況・受講態度・レポート内容・試験の結果等を総合的に評価する。				
使用テキスト等	「保育内容総論」(配本テキスト) 幼稚園教育要領解説 平成20年10月 文部科学省 保育所保育指針解説書 平成20年 4月 厚生労働省				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育の表現技術（合奏）	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	本授業では、こどもの表現技術の立場から音楽をとらえる。そのために、一つ一つの楽器を使った表現に始まり、それらを重ね合わせる表現、つまり合奏について様々な角度からアプローチし考察する。ダルクローズ・コダーイ・オルフの音楽教育を踏まえこどもの表現活動について理解すること、また楽器を使った表現について習熟することが到達目標である。				
授業概要	こどもの表現活動の立場から音楽をとらえるために、ダルクローズ・コダーイ・オルフの音楽教育について学び、こどもの表現能力を引き出す合奏の指導法について考えるとともに、こどもの表現欲求に即した編曲法・指揮法について解説しながら、演習を交え授業を進める。				
授業計画	1、こどもと音楽表現：こどもの発達と「表現（音楽）」について考え、理解する 2、ダルクローズの音楽教育：身体を使った表現とリズムについて学び、実践する 3、コダーイの音楽教育：わらべ歌やリズム唱による音楽表現の効果について学ぶ 4、オルフの音楽教育：オルフ楽器について学び、合奏を実践する 5、編曲法：こどもの「表現(音楽)」を念頭に置いた編曲法を習得する 6、指揮法：こどもの「表現(音楽)」をサポートできる指揮について考え、実践する 7、合奏の実践：様々な表現法を試み、音色を探究しながら合奏する 8、成果発表と総括：合奏実践の成果発表を行い、楽器を通したこどもの「表現(音楽)」について、またこどもと音楽との関わりについてまとめる				
成績評価基準	授業態度（20％）、課題提出（20％）、単位認定試験（60％）				
使用テキスト等	授業を進める上で必要に応じて適宜楽譜などの資料を配布する				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育の表現技術（身体）	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	こどもの心身の発達特性を十分に理解し、この時期の体育的活動の指導者として必要な体育に関する基礎的知識と技能を学習し、こどもの健全な身体発達を促すと同時に、こどもが主体的に楽しく安全に身体活動を行うことができるための指導方法を習得する。				
授業概要	幼児を対象とした身体表現遊び・運動を実践するために必要な実践的力量形成を目的とする。そのため、幼児の心身の発達や運動を理解したうえで、様々な身体表現遊び・運動の指導上の留意点について説明する。また、実践的力量を高めるためにグループごとに簡単な身体表現遊び・運動を提案し、互いに評価しあうことも行う。				
授業計画	1、幼児の体力・調整力の発達 2、基本動作の発達について 3、幼児の体操 4、幼児のボール運動 5、幼児の縄遊び 6、幼児の跳び箱 7、幼児のマット運動 8、運動遊びの基本と指導者の援助				
成績評価基準	受講態度及び単位認定試験の結果を総合して評価する。				
使用テキスト等	※必要に応じ、適宜プリント教材を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	音楽Ⅱ（ピアノ）	授業区分	演習	単位数	1
授業目標	幼児の調和のとれた心身の発達を促すものは、教師・保育者の意図的・計画的な指導によることを踏まえ、幼児の発達や学びの過程にあった教材を精選する知識と、保育者として幼児の成長を促す音楽的活動を創造する力を身につけることを目的とする。				
授業概要	様々な音楽演奏をするうえで、必要とされるリズム感やコード感覚、アレンジ力を養い、実際に演奏することを目的とする。一つの楽曲をアレンジする方法を学び、出来上がったアレンジ曲を実際に演奏する。演奏にあっては、ML 教室の電子ピアノの様々な楽器の音色を用いる。				
授業計画	1、ピアノの基礎的奏法の習得①（ピアノ曲） 2、ピアノの基礎的奏法の習得②（弾き歌い） 3、ピアノの基礎的奏法の確認と復習①（姿勢・運指） 4、ピアノの基礎的奏法の確認と復習②（平易な伴奏法） 5、コード（和音）の理解 6、読譜力の強化①（拍と音程の知識） 7、読譜力の強化②（曲想の認識） 8、筆記試験および事前課題による実技試験、総括				
成績評価基準	事前課題（40％）、単位認定試験及び意欲度（60％）				
使用テキスト等	こどもと音楽表現Ⅰ（ピアノ）・音楽②（ピアノ）（配本テキスト） 参考図書：「幼稚園教育要領」（文部科学省）、「保育所保育指針」（厚生労働省）、 「幼保連携認定こども園・保育要領」（内閣府・文部科学省・厚生労働省） ※必要に応じ、適宜プリント教材を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	こども理解の理論と方法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	こども理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解し、こども理解の方法を具体的に理解する。こどもの発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を学修する。 1. こども理解の意義を理解する。 2. こども理解の具体的な技法として観察・面接の実際を理解し、身につける。 3. こども理解の具体的実践と特別支援教育、幼小接続との関連を理解する。 4. こども理解のための評価方法と支援の方法を理解する。				
授業概要	こども理解の基盤となる発達心理学、臨床心理学等の理論を解説する。そして幼稚園教諭の専門性としてのこども理解のあり方を幼児教育の特質と関連づけて解説する。また家庭、幼稚園、地域等のこどもを取り巻く環境との関わりや特別支援教育、幼小接続におけるこども理解のあり方について検討する。				
授業計画	1. 幼児理解の理論、及び学ぶ意義を学ぶ（6時間） 2. こどもの理解《1》発達心理学的見地から（6時間） 3. こどもの理解《2》臨床心理学的見地から（6時間） 4. こどもの理解と方法《1》発達アセスメントから〔知的発達見地から〕（6時間） 5. こどもの理解と方法《2》発達アセスメントから〔認知発達見地から〕（6時間） 6. 教育現場における事例研究 〔認知分野にハンディーを持つこどもの理解と対応〕（6時間） 7. こども理解と保護者支援、及び地域連携（6時間） 8. 保育におけるこども理解の基本（6時間） 9. 記録の取り方と評価（6時間） 10. 幼児期の発達理解と保育の実際（6時間） 11. 保護者対応ー子育て支援の視点から（6時間） 12. こども理解と指導計画、個と集団の関係（6時間） 13. 気になる子ども・特別な配慮を要するこどもと保護者とのかかわり（6時間） 14. 専門機関・小学校との接続（6時間） 15. こども理解の今日的課題・教師の姿勢、まとめ（6時間）				
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題において、教育相談に対する知識の理解と定着、および、自分なりの考えが持てているかを判定し、評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	『新時代の保育双書 子どもの理解と保育・教育相談』（配本テキスト） 幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価（平成22年 文部科学省） 幼稚園教育要領解説（平成30年 文部科学省） 保育所保育指針解説書（平成30年 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年 内閣府・文部科学省・厚生労働省）				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	生 活	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	生活科の歴史、趣旨、目標と内容および授業づくりの視点等についての理解を深め、生活科の授業を展開するための基本的内容を理解する。				
授業概要	生活科は具体的な活動や体験を通して、よき生活者としての生きる智慧を身につけることを目指していると考えられる。そのため、「生活科とは何か」という根本的・本質的な側面を明らかにしつつ、内容構成、指導計画、評価、授業作りの視点などについて考えていく。				
授 業 計 画	1. 生活科の教科としての位置づけ、歴史 2. 生活科とこどもの発達 3. 学習指導要領（平成29年告示）生活科改訂の内容と留意点 3. 生活科の目標とその吟味・検討 4. 生活科の内容構成と具体的な視点1 5. 生活科の内容構成と具体的な視点2 6. 生活科の内容構成と階層性 7. 生活科と体験学習 8. 生活科の指導計画作成及び学習指導上の留意点 9. 生活科における気付き 10. 生活科の単元構成と指導原理 11. 生活科の評価 12. 生活科の学習指導の進め方 13. 生活科の指導実践事例について 14. 就学前教育と生活科、スタートカリキュラムの配慮事項 15. 生活科と総合的な学習の時間				
成績評価 基準	学習状況の確認：レポート課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	・「生活」（配本テキスト） ・小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年6月 文部科学省）				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員（教諭・校長 通算33年）教育センター指導主事（5年）幼稚園長（3年） ※上記の経験を持つ教員により、生活科の本質、授業構成の視点等を理解し、ことについて授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	外国語（英語）	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	小・中学校の接続を踏まえながら、小学校における「外国語活動」及び「外国語」の授業を担当するために必要な背景的知識を身に付けるとともに、授業を担当するために必要な実践的でコミュニケーション的な英語運用能力を実際の授業場面を意識しながら身に付ける。 ・ 授業を担当するのに必要な「聞く・話す・読む・書く」4技能の英語力を身に付けている。 ・ 英語に関する基本的な音声、語彙、文構造、文法、正書法等について理解している。 ・ 第2言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 ・ 児童文学（絵本や歌、詩等）や異文化理解に関する事柄について理解している。				
授業概要	実際の教育環境での授業場面を想定する中で、教師と児童に成り代わって英語での発表や英語のやり取りを行いながら、英語に関する基本的な知識（発音・語彙・文構造・文法・正書法等）、第二言語習得（インプット・インターアクション・アウトプット）児童文学（絵本・歌・詩等）異文化理解に関する基本的な知識を身に付けるとともにインターラクティブな言語活動を通して、実践的な英語運用能力を育成する。				
授業計画	1. 小学校英語教育の変遷・授業実践に必要な英語力（聞く・話す①）（4時間） 2. 英語の音声とリズム（チャンツ）・授業実践に必要な英語力（聞く・話す②）（4時間） 3. 発音と綴りの関係・授業実践に必要な英語力（聞く・話す③）（4時間） 4. 英語の文構造・文法・授業実践に必要な英語力（聞く・話す④）（4時間） 5. 英語の語彙・授業実践に必要な英語力（話す①：ティチャートーク）（2時間） 6. 第二言語習得理論・授業実践に必要な英語力（話す②：ティチャートーク）（3時間） 7. 児童文学（絵本）・授業実践に必要な英語力（読む①）（2時間） 8. 児童文学（子ども向けの歌や詩）・授業実践に必要な英語力（読む②）（2時間） 9. 異文化理解・授業実践に必要な英語力（書く①）（2時間） 10. 英語の書き方・授業実践に必要な英語力（書く②）（2時間） 11. 英語コミュニケーション①（聞くこと）（4時間） 12. 英語コミュニケーション②（読むこと）（3時間） 13. 英語コミュニケーション③（話すこと「やり取り・発表」）（4時間） 14. 英語コミュニケーション④（書くこと）（3時間） 15. 英語コミュニケーション⑤（領域統合型の言語活動）（2時間）				
成績評価基準	・ 毎時の出欠状況、学習態度 ・ テスト、レポートの総合評価				
使用テキスト等	「小学校英語 はじめる教科書」（配本テキスト） 参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（外国語活動・外国語）（平成29年3月告示 文部科学省）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	音楽科指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	初等教育における音楽の位置付けを理解し、子供が音楽をより深く味わい楽しむことができる授業づくりを考える。 ・音楽科の目標及び主な内容、指導上の留意点を理解し、授業設計と学習指導案を作成することができる。 ・音楽科の授業を行うために必要となる音楽的能力を身につけている。				
授業概要	本授業の目的は、音楽科教育における活動のあり方について深く理解し、子供の感性を刺激し豊かな表現力を引き出す音楽的活動を創造することのできる能力を育成することにある。歌唱やリコーダー奏、音楽づくりを通して、その楽器の活用法、学習形態などを考え、音楽科の指導方法を身につける。				
授業計画	1. 音楽科の目標と内容（3時間） 2. 共通事項の指導法（5時間） 3. 歌唱共通教材の演習（1～3学年）（10時間） 4. 歌唱共通教材の演習（4～6学年）（10時間） 5. ソプラノリコーダー運指の確認（3時間） 6. 指導計画の作成と内容（10時間） 7. 評価の方法（4時間） 8. 事前課題実技試験 9. 音楽活動を通じた共通事項の指導法 10. 音楽科の指導内容（歌唱・器楽） 11. 音楽科の指導内容（音楽づくり・鑑賞） 12. 学習指導案作成と評価の方法 13. 模擬授業（歌唱・器楽） 14. 模擬授業（音楽づくり） 15. 音楽科教育に必要な教師の音楽的能力 単位認定試験				
成績評価基準	・毎時の出欠状況、学習態度 ・テスト、レポートの総合評価				
使用テキスト等	「音楽科指導法」（配本テキスト） 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	外国語（英語）指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	小学校における「外国語活動」及び「外国語」の学習・指導・評価に必要な基本的な知識・指導技術を身に付ける。 ・小学校外国語教育の変遷、小・中・高等学校の外国語の目標・内容について理解している。 ・コミュニケーション活動を通じた意味のあるやり取りを行う重要性を理解し、指導に生かすことができる。 ・題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定・教材研究ができる。				
授業概要	小学校における外国語教育に関わる背景知識（第二言語習得理論等）・主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境（TT、ICTの活用等）について学修するとともに、模擬授業づくりを通して授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。				
授業計画	1. 学校における英語教育導入の経緯と現状、 小学校外国語教育の目標（6時間） 2. 母語習得と第二言語習得、外国語教育における指導法（6時間） 3. 教材・テキストの構成と内容（6時間） 4. 指導目標・年間指導計画の立て方（6時間） 5. 言語材料と4技能の指導（6時間） 6. 教材研究①（歌・チャンツ、ゲーム、絵本の指導）（6時間） 7. 教材研究②（コミュニケーション・自己表現活動、プロジェクト活動）（9時間） 8. 教材・教具の活用法、評価の意義と評価法 9. 授業過程と学習指導案の作成 10. 授業づくり（教材研究、ALTとのTT指導、授業の振り返り） 11. 授業映像の視聴 12. 模擬授業①（授業計画、授業準備） 13. 模擬授業②（授業準備、授業実演） 14. 模擬授業③（授業実演、授業の振り返り） 15. 小学校外国語教育の課題と展望 単位認定試験				
成績評価基準	・毎時の出欠状況、学習態度 ・テスト、レポートの総合評価				
使用テキスト等	「新編 小学校英語教育法入門」（配本テキスト） 「We Can!1、We Can!2」（平成29年12月 文部科学省） 参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） Let's Try!1、Let's Try!2（平成29年12月 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 外国語活動編（平成29年7月 文部科学省）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	図工科指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	図画工作の求める内容について学習指導要領を中心に理解し、実技指導について製作活動も行いながら体得していく。 ・児童が興味を持ちながら、楽しく個々の個性を発揮できるような授業展開をイメージしながら、指導方法を身につける。 ・演習課題も楽しんで取り組んでほしいが、技術的なことや発想（アイデア）などができない、出てこないときはどうしたら助けになるかなどもイメージできる力をつける。 ・図画工作というカテゴリーにとどまらず、他の教科との関連も含め、大きな視野をもつ。				
授業概要	小学校「図画工作」の授業を行うために必要な知識と技術を学んでもらう。幼稚園での表現内容（5領域の造形分野）と低学年（1、2年）の図画工作の関連、さらに、中学年（3、4年）、高学年（5、6年）へと身体や精神の発達に関連して発想や表現力も身についてくるころである。そのようなことも踏まえて、絵画、立体、工作、造形遊びを中心に、講義、演習課題、指導のポイント等をいくつかの課題を行いながら、授業を進める。授業計画（指導案）、評価等について講義、課題等で実践指導を学ぶ。（情報機器、教材利用）				
授業計画	1. 図画工作教育について 図画工作科教育の変遷（5時間） 2. 学習指導要領の目標と内容について（3時間） 3. 各学年の目標、内容について（5時間） 4. A 表現（1）（2）、B 鑑賞について（18時間） 5. 指導計画、指導案について（6時間） 6. 評価について（2時間） 7. 教材・用具について（6時間） 8. 授業内容の説明、図工の歴史的変遷 9. 学習指導要領について 10. 造形遊びについて（課題制作） 11. 絵に表すについて（版画課題制作） 12. 立体に表すについて 13. 工作に表すについて（課題制作） 14. 指導計画、評価について（指導案作成） 15. 模擬授業（情報機器、教材等を活用）				
成績評価基準	・毎時の出欠状況、学習態度 ・テスト、レポートの総合評価				
使用テキスト等	「図工科指導法」（配本テキスト） 参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	生活科指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	・生活の目標や内容、趣旨とともに全体的な構造を理解する。 ・指導計画作成の意味や学習指導の進め方について理解するとともに、学習指導案を作成し、模擬授業において具現化することができる。 ・ICT機器の活用を含めた教具、具体物を授業構成に生かすことができる。				
授業概要	小学校学習指導要領から、生活科の目標・内容についての理解を図り、教科の特性である活動や体験の大切さに気付く。また、幼児教育との連携も視野に入れ、生活科は保幼小の段差解消に大きな役割を果たすことを理解する。具体的な各内容については、指導計画や学習指導の充実とともに具体的な授業展開を学ぶことにより、実践的な態度を身に付ける。				
授業計画	1. 生活科の目標と内容、趣旨 2. 生活科の学習指導 3. 就学前教育との連携 4. 生活科指導法の実践における指導上の留意点 5. 生活科における気付きの質、思考し表現する力 6. 第1階層「学校と生活」「地域と生活」における指導方法の実践的な検討 7. 第2階層「公共物や公共施設の利用」「季節の変化と生活」における指導方法の実践的な検討 8. 第2の階層「自然や物を使った遊び」「動植物の飼育・栽培」における指導方法の実践的な検討 9. 第2の階層「生活や出来事の伝え合い」における指導方法の実践的な検討 10. 第3の階層「自分の成長」における指導方法の実践的な検討 11. 生活科の指導案の作成 12. 模擬授業の計画 13. 模擬授業 14. 模擬授業の評価、討論 15. 指導法の総括				
成績評価基準	成績評価：受講態度、課題、授業作り、科目試験結果により総合的に評価する。				
使用テキスト等	・「生活科指導法」(配本テキスト) ・小学校学習指導要領解説 生活編(平成29年6月 文部科学省)				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員(教諭・校長 通算33年) 教育センター指導主事(5年) 幼稚園長(3年) ※上記の経験を持つ教員により、生活科の各内容の趣旨及び学習指導の立案、展開、評価等に関する授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	生徒指導・進路指導	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	わが国では今日の課題として青少年の問題行動の多発化、若者のニート等の勤労観・職業観の欠如が大きな社会問題となっている。 そこで将来、教育に携わる者にとって必要な教科指導と共に生徒指導・進路指導の必要性を十分理解し指導できる力を育てることをねらいとする。 そのため下記のことに努める。 ・学習指導と生徒指導・進路指導が一体化した指導ができるようにする。 ・様々な幼児、児童生徒の問題行動に対応できる指導力を身につける。				
授業概要	本授業は、「生徒指導の意義と原理」「すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方」「児童生徒の抱える生徒指導上の課題」「養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方」などを中心に学修を進めていく。特に児童生徒全体への指導においては、チームによる支援、学校種間や学校間の連携の重要性について理解を図る学修にする。進路指導においては、学校で学ぶことと社会との接続を踏まえ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育む進路指導・キャリア教育の意義や原理について学修する。具体的には進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善、ガイダンス機能、キャリア・カウンセリングなどについて理解を深める学修にする。				
授業計画	・なぜ生徒指導・進路指導は必要か ・生徒指導の今日の課題 ・生徒指導の意義・目的・必要性・領域 ・学習指導と生徒指導の一体化（事故指導能力の育成） ・生徒指導上の教師の基本姿勢 ・進路指導の意義・理念 ・進路指導の進め方（就学前指導含む） ・キャリア教育とは、必要性は ・キャリア教育の推進・体験活動 ・いじめ、不登校の実態と対応策（事例） ・問題行動の実態と対応事例				
成績評価基準	・毎時の出欠状況、学習態度 ・テスト、レポートの総合評価				
使用テキスト等	「生徒指導・進路指導」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員（教諭・校長 通算35年） ※上記の経験を持つ教員により、学習指導と生徒指導・進路指導が一体化した指導ができるように授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	生徒指導の理論と方法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 (1) 教育課程における生徒指導の位置付けを理解するとともに、各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。 (2) 集団指導・個別指導の方法原理を理解し、日々の生徒指導の在り方を認識している。 (3) 生徒指導体制の基本的な考え方を理解している。 (4) 生徒指導の組織と指導計画に基づいた組織的な取組みについて理解している。 (5) 生徒指導の機能が十分保障される指導の在り方を理解している。 (6) 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解するとともに、暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。 (7) インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。				
授業概要	本授業は、「生徒指導の意義と原理」「すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方」「児童生徒の抱える生徒指導上の課題」「養護教諭等の教職員、がいぶの専門家。関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方」などを中心に学修を進めていく。特に児童生徒全体への指導においては、チームによる支援、学校種間や学校間の連携の重要性について理解を図る学修にする。				
授業計画	1. 教育課程における生徒指導の位置付け（6時間） 2. 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義（6時間） 3. 集団指導・個別指導の方法原理（6時間） 4. 生徒指導体制の基本的な考え方（6時間） 5. 教育相談体制の基礎的な考え方（6時間） 6. 学校の指導方針や指導計画に基づいた組織的な取組み（6時間） 7. 基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方（6時間） 8. 生徒指導の機能を保障した日々の生徒指導の進め方（6時間） 9. 生徒指導に関する法制度（6時間） 10. 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題に対する早期発見と効果的な指導（6時間） 11. インターネットや性に関する課題や児童虐待などの今日的課題の対応について（6時間） 12. 学校と家庭・地域・関係機関との連携（6時間） 13. 生徒指導における児童生徒理解の重要性（6時間） 14. 発達に関する課題と対応（6時間） 15. 生徒指導の評価と改善（6時間）				
成績評価基準	学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「生徒指導提要」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員（教諭・校長 通算35年） ※上記の経験を持つ教員により、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	体育科指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	よい体育授業」とは何か、その構造と諸条件を理解し、模擬授業とふりかえり（授業改善）を通して実践的な力を身に付ける。 ・ 小学校学習指導要領体育科の目標・内容が理解できる。 ・ 「よい体育授業」を行うための基礎的条件と内容的条件が説明できる。 ・ 「教材づくり」が、授業構想の中で重要な柱になることを説明できる。 ・ 体育指導と学習評価及び体育授業の評価の視点と内容を説明できる。 ・ 模擬授業の意義を理解したうえで、仲間とともに効果的な模擬授業の準備・実施・ふりかえりができる。				
授業概要	本授業は、「よい体育授業」を行うための基礎的理論とその実際を学ぶ。学習指導要領体育科の目標、内容を踏まえた上で、体育授業の根幹をなす「教材づくり」と体育指導及び評価について学習し、模擬授業とふりかえり（授業改善）を通して実践的な能力を身に付ける。また、保健領域の内容と取扱いについても学習する。				
授業計画	1. 領域別系統①（体づくり運動系）（10 時間） 2. 領域別系統②（器械運動系）（5 時間） 3. 領域別系統③（陸上運動系）（5 時間） 4. 領域別系統④（水泳運動系）（5 時間） 5. 領域別系統⑤（ボール運動系）（10 時間） 6. 領域別系統⑥（表現運動系）（5 時間） 7. 領域別系統⑦（保健）（5 時間） 8. 体育科の目標・内容と指導計画 9. 「よい体育授業」の基礎的・内容的条件 10. 教材づくりの視点と内容／体育指導と学習評価 11. 教師の能力と省察力／指導案／体育の授業評価 12. 模擬授業の意義と効果的な運営／模擬授業準備 13. 模擬授業（授業者・児童役・観察者・ビデオ係・記録）とふりかえり① 14. 模擬授業（授業者・児童役・観察者・ビデオ係・記録）とふりかえり② 15. 授業改善と「よい体育授業」について				
成績評価基準	学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「体育科指導法」（配本テキスト） 小学校学習指導要領体育編（平成 29 年 7 月 文部科学省）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	道徳教育論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	道徳教育の意義と本質を理解する。 子どもたちに豊かな人間性を培うために道徳性の育成について考える。 道徳教育の歴史的 position 付けを考え、道徳教育の果たすべき役割を具体的に理解する。				
授業概要	「道徳」全般に関わる様々なテーマを扱う。道徳教育の今日的意義と重要性、道徳教育の歴史的変遷、道徳教育の法的な根拠、全教育活動における道徳教育、道徳の時間における道徳教育の実践に役立てる。				
授業計画	1. 道徳とは 2. 道徳の目標 3. 道徳教育の歴史 4. 道徳教育の歴史 5. 道徳教育の歴史 6. 道徳教育の歴史 7. 世界の道徳教育 8. 世界の道徳教育 9. 道徳教育と宗教 10. 道徳教育の実際 自閉症 11. 道徳教育の実際 原爆について 12. 道徳教育の実際 ハンセン氏病 13. 道徳教育の実際 いじめ 14. 道徳教育の実際 エイズ 15. まとめ				
成績評価基準	学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	自ら学ぶ道徳教育（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	社会	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	現代社会の諸問題について、自らの見解を形成し表現する力を養い、社会的適応力を身につける。				
授業概要	「学習指導要領」（社会）の目標、および、各学年の目標と内容を認識させる学習を進め、指導計画の作成について欠かせない基本的な知識を着実に身につけること、および、具体的な学習の指導計画を事例として、その特色を分析しながら、指導計画作成の根本原理を習得することを本授業の目的とする。				
授業計画	1. 小学校社会科教育の意義と課題 2. 小学校社会科教育論・実践の歴史 3. 小学校社会科教育の目標論・学力論 4. 小学校社会科教育の内容と方法 5. 小学校社会科の内容と学習指導 6. 小学校社会科教育の評価				
成績評価基準	学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「社会科教育のルネサンスー実践知を求めてー」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	算数	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	これからの幼児・児童生徒の教育に携わる者にとって算数教育全般にかかわる理論と現行の小学校学習指導要領（算数科）を習熟する事をねらいとする。 そのため下記のように努める。 ・ 学習指導要領改訂の経緯とねらいが理解できるようにする。 ・ 算数科学習目標、各学年内容の把握ができるようにする。 ・ 算数科、数学科の内容とその系統、関連性が理解できるようにする。				
授業概要	小学校算数科の主要な単元に関する教材研究を通して、算数科の学習内容を学ぶとともに、算数科の教材研究の方法を習得することを目的とする。そのためにまず、こどもの実態を把握するために授業ビデオを視聴し、次に小グループに分かれて担当する学習内容について指導案を作成・発表し、算数科の学習内容に対する理解を深めることとする。				
授業計画	・ 算数はなぜ学ぶか ・ 我が国の教育の現状（国際学力到達度調査） ・ 学習指導要領改訂の経緯（法改正） ・ 学習指導要領改訂（算数科）の基本方針 ・ 学習指導要領改訂（算数科）の要点 ・ 算数科の目標・内容 ・ 算数的活動とは ・ 学年目標の要点 ・ 4領域の各学年内容 ・ 数の誕生と進化（拡張） ・ 整数、小数、分数の意味・概念、四則計算 ・ 数・図形のおもしろさ				
成績評価基準	学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	新訂算数教育の理論と実際（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員（教諭・校長 通算35年） ※上記の経験を持つ教員により、算数科学習目標、各学年内容の把握ができるように授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	理科	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	理科という教科は、観察や実験をもとにして学習が展開していくものである。そのためには、教師自らが自然の事物・現象に対して興味・関心を持ち続け、常に、自然の不思議さを探求し続けていくことが大切である。 ここでは、小学校理科の内容を物理、科学、生物、地学に分け、4領域それぞれの教科領域としての背景を理解し、教材の持つ特性や教材開発の方法を習得する。 さらに、子どもたちが主体的に観察・実験を行うことを通して、問題解決の能力を育成するための指導法を身につけることを目的とする。				
授業概要	観察、実験、栽培などを通じて自然に親しみ、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。				
授業計画	1. 学習指導要領に見る小学校理科の全貌 2. 「生物」領域の内容の基本事項―「動物の持続性」 3. 「生物」領域の内容の基本事項―「動物の構造と機能」 4. 「生物」領域の内容の基本事項―「植物の連続性」 5. 「生物」領域の内容の基本事項―「生物と環境のかかわり」 6. 「物理」領域の内容の基本事項―「エネルギー概念」てこ 7. 「物理」領域の内容の基本事項―「エネルギー概念」電流 8. 「化学」領域の内容の基本事項―「粒子概念」物の溶け方 9. 「化学」領域の内容の基本事項―「粒子概念」水溶液 10. 「地学」領域の内容の基本事項―「地球の周辺」 11. 「地学」領域の内容の基本事項―「地球の内部」 12. 小学校理科と中学校理科との関連 義務教育で培いたいエネルギー概念 13. 小学校理科と中学校理科との関連 義務教育で培いたい生物の進化遺伝の概念 14. 小学校理科と中学校理科との関連 義務教育で培いたい粒子概念 15. 理科教育における環境教育の展開 学校における環境教育				
成績評価基準	学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「理科」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員（教諭・校長 通算33年） ※上記の経験を持つ教員により、4領域それぞれの教科領域としての背景を理解させ、教材の持つ特性や教材開発の方法を習得させる授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	理科指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	「生きる力」を培う理科の授業では、観察、実験、自然観察、ものづくりのどの化学体験を通して作られる知とともに、子ども自らが主体的に知の作り方を獲得していく学習指導が大切である。そのためには、子どもが新たな体験や発見をすることに生じるこんな世界があったのかと感動を与えられるような授業作りを求めている。 したがって、そのような授業の創造のために、教材開発の仕方、授業の展開方法、学習指導案の作成の仕方などを習得するとともに、模擬授業などを体験することによって理科教員としての実践力や心構えを身につけることを目的とする。				
授業概要	・小学校理科指導に必要な基本的考え方、指導技術などの実践的指導力を学ぶ。 - 教材開発の仕方、学習指導法(授業展開の基本・評価)、学習指導案の作成、模擬授業 ・直接体験を重視する理科教育の特性から、子どもが考えた観察・実験の生かし方を追及する。 ・映像教材の特性を生かして、「NHK 学校放送」などをはじめ教育機器を活用した授業設計を学ぶ。				
授業計画	1.新しい学力観の意味するもの ・諸葛格好理科教育で培いたい資質・能力 2.小学校指導要領(理科)の変貌と改定の要点ー理科教育の役割と現代的な課題及び展望 3.物理分野の学習材と指導 ・風やゴムの動き 光の性質 てこの規則性 4.科学分野の学習材と指導 ・基本的な実験操作 燃焼の仕組み 5.生物分野の学習材と指導 ・生物学習の宝庫づくり (生物教材の植樹、雑草地の活用ビオトープ池の設置) 6.地学分野の学習材と指導 ・地球環境学習の重要性 土地のつくりと変化 7.学習指導法の類型とその特色 ・問題解決学習 系統学習 探求学習 8.学習指導案作成 その1 ・教材観 児童観 指導観 9.学習指導案作成 その2 ・学習指導展開と評価方法 10.指導計画作成の考え方 ・指導目標の具体化の技術 こどもの実態を捉える技術教材の曖昧と提示 11.観察・実験や野外観察における事故防止 ・事故防止のための基本的考え方留意点と対策 12.理科教育における環境教育の展開 ・環境教育の課題/健軍水源地見学及び江津湖の自然観察 13.学習意欲を高める授業 ・学習意欲の現状と課題 学習意欲をどのように育成するか 14.授業展開の基本 ・授業の果たすべき役割 授業構成の要素 授業構成のポイント 15.模擬授業 ・知的好奇心や探求心を高める授業づくり				
成績評価基準	授業への参加意欲や態度、目的に応じた適切な資料の作成や活用と保存、出席状況、テスト、レポート等を通して総合的に評価する。				
使用テキスト等	「理科指導法」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	小学校教員(教諭・校長 通算35年) ※上記の経験を持つ教員により、小学校理科指導に必要な基本的考え方、指導技術などの実践的指導力を身に付ける授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	学校保健	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	児童生徒はもとより、教職員を対象とした健康上の配慮と健康に関する教育を包括する。児童・生徒の健康とその確保に関する理論を探究するとともに、実際に保持増進させるための学校保険法及び保健教育面についての学習指導要領を中心に検討する。				
授業概要	教科書を中心に授業をすすめる。その中で特に自分の学生時代の経験を参考にしながら望ましい養護教諭像をイメージし発展させる授業を行う。				
	1)学校保健とは ①学校保健とは ②学校保健関係職員 2)子ども発育・発達 ①子どもの体格 ②体力 3)学校保健教育 ①学校保健教育の考え方 ②学校における健康づくり 4・5)健康診断 ①健康診断の意義と目的 ②健康診断の種類 ③児童生徒等の健康診断 ④教職員の健康診断 ⑤健康相談 6)健康観察・健康相談と健康相談活動 ①健康観察 ②健康相談 ③健康相談活動 7・8)学校環境衛生 ①学校保健安全法と学校環境衛生 ②教室の環境にかかる学校環境衛生 ③飲料水の水質及び施設・設備に係る環境衛生基準 ④水泳プールに係る環境衛生基準 9・10)疾病の現状と予防 ①学齢期の健康状況 ②感染症対策 ③歯科保健 ④学校にみられる心の問題 ⑤慢性疾患 ⑥生活習慣病 ⑦アレルギー 11)学校安全 12)救急処置 13)保健室の役割 14)養護教諭のための専門知識 ①人体の構造と予備の基礎 ②臨床検査所見のみかた 15)まとめ				
成績評価基準	授業効果判定のための小テスト、授業態度、出席状況、レポート提出、テスト等で、総合評価をする。				
使用テキスト等	「学校保健」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭（38年） ※上記の経験を持つ養護教員により、望ましい養護教諭像をイメージし発展させる授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	看護演習	授業区分	演習	単位数	2
授業目標	看護演習は、看護実践における看護技術を身につけるために演習を中心に学習する。具体的には、対象の健康状態を判断するためのスクリーニングの技術、問題発生時の対処法、養護教諭として一般医療の対象とならない軽微な応急手当から救急時の基本的な技術に焦点をあてる。				
授業概要	看護学Ⅰ・Ⅱで習得した知識を踏まえて、学校場で展開するために必要な基礎技術の演習を中心に学習する。特に応急手当に重点をおいて実践的な演習を行う。				
授業計画	1. 生命の徴候を観察する技術／バイタルサインの測定／フィジカルアセスメントテクニック 2. ベッドメイキング 3. 感染症を予防するためのプロセス 手洗い／無菌操作／ガウンの装着／滅菌物の取り扱い 4. 安楽な体位の援助 5. 一次救命処置 6. 応急処置 ショック／止血法／包帯法 7. 傷病手当 8. 授業の総括				
成績評価基準	単位認定試験(受講態度を含む)により総合的に評価する。				
使用テキスト等	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術」（配本テキスト）				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	健康相談活動	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 児童生徒の心身の健康課題の現状と課題について説明できる。 2. 健康相談活動の基本的な考え方とプロセスが説明できる。 3. 健康相談活動に必要な技術を習得し実践できる。 4. 関係者と連携し支援の在り方を考えることができる。				
授業概要	健康相談活動は、養護教諭養成における「養護に関する科目」の必修科目です。健康相談活動は、臨床心理士が行うカウンセリング、教諭が行う教育相談、学校医・学校薬剤師・学校歯科医が行う健康相談とも異なり、養護教諭の特質と保健室の機能を生かして心と体への対応をおこなう養護教諭独自の相談活動を言います。養護教諭の固有性や独自性をもって、最も専門性を発揮して行う養護活動の一つです。授業では、心身の健康課題の把握・問題解決に向けて健康相談活動の力量を高めていきます。そして、子ども達の心身の健康課題の解決には、多くの人々との連携は欠くことができません。連携の在り方についても考え、実践能力を高めていきます。				
授業計画	1. オリエンテーション 教育における養護教諭の役割の確認、授業内容の説明／授業受講上の留意事項／養護教諭の活動と役割 2. 養護教諭の職務と健康相談活動 養護教諭の職務全般の理解／健康相談活動の基本的理解／養護教諭の特質・保健室の機能の理解 3. 児童生徒の健康問題の現状と課題 社会の変化と健康問題の変遷／心身の健康問題の現状と背景 4. 健康相談活動を支える諸理論について 身体・精神の発育発達に関する諸理論／心身症／小児の疾病／発達障害の理解 5. 健康相談活動の進め方 原理と構造／養護教諭に必要な知識と技能 6. 健康相談活動におけるヘルスアセスメント・基本的なカウンセリング能力と技法 ヘルスアセスメントの種類と方法／カウンセリングと健康相談活動の違いの理解 7. こどものヘルスニーズの理解 子どものヘルスニーズの種類／発達段階におけるヘルスニーズの特徴について 8. 健康相談活動の実際 健康相談のプロセス/初期対応・継続的対応について 9. 健康相談活動の実際 危機介入について、危機介入を必要とする問題（不登校・保健室登校・いじめ・摂食障害・自殺・精神障害等）の対応 10. 健康相談活動の実際 児童虐待について 児童虐待の種類と現状／児童虐待と養護教諭の役割について 11. 健康相談活動の実際 慢性疾患を抱える子どもの支援心臓・腎臓疾患、小児糖尿病、アレルギー疾患等の慢性疾患の理解と支援について 12. 健康相談活動における連携 子どもの支援体制と学校内・外の連携／専門機関の理解／コーディネーターとしての資質能力 13. 健康相談活動の記録と事例検討 記録の仕方／事例検討の意義と進め方について 14. 事例から学ぶ健康相談活動の実際 事例の理解／養護教諭の対応／連携の在り方について、今までの学びの統合 15. 健康相談活動の評価 健康相談活動の評価/P D C Aサイクルについて				
成績評価基準	試験（70％）、レポート課題（20％）、関心・意欲・態度（10％）で評価する。				
使用テキスト等	『新版 養護教諭の行う健康相談』（配本テキスト） 補助教材として随時プリントを配布する、参考書は、授業において適宜紹介します				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭（38年） ※上記の経験を持つ養護教員により、健康相談活動に必要な技術を習得し実践できるように授業を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	精神保健	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	1. 精神保健活動について説明できる。 2. 各発達段階における精神的健康を保持・向上させるための環境のあり方について述べるができる。 3. 保護者の精神保健を理解し、支援について考えることができる。				
授業概要	健康とは「身体的、精神的および社会的に完全に良好な状態であり、単に病気でないとか病弱でないということではない（世界保健機関（WHO）憲章全文）。」とされます。したがって、人間が健康を保つためには、人間相互がよりよい環境となり、相互の精神保健を常に心がける必要があります。それにより人間は健全な発達をとげることができるのです。特に身体発達過程にある子どもの環境となる保育者や教育者には精神保健の知識を身につける必要があります。本授業ではそれらの知識を身につけ、実践できる資質を養うことを目指します。				
授業計画	1. オリエンテーション 精神保健の意義、精神保健の対象・精神的健康について基本的な定義を理解する 2. 精神保健の歴史 欧米、日本における精神保健の歴史について概観する 3. 子どもの身体発育と精神保健 中枢神経系の構造、中枢神経系の発達を阻害する原因などについて理解する 4. 胎児期・乳児期の精神保健 胎児期・乳児期の精神発達と発達課題について学び、対応を考える 5. 幼児期・児童期の精神保健 幼児期、児童期の精神発達と発達課題について学び、対応を考える 6. 思春期・青年期の精神保健 思春期・青年期の特徴・思春期の問題について学び、対応を考える 7. 成人期以降の精神保健① 成人期・中年期・老年期の課題と精神保健上の問題について学ぶ 8. 成人期以降の精神保健② 老年期の課題と精神保健上の問題、認知症について学ぶ 9. 生活環境の精神保健 地域社会・職場の精神保健活動について学ぶ 10. 障害のある子どもの精神保健 発達障害についての理解と対応を学ぶ 11. 大人の精神保健① 統合失調症・境界例について理解する 12. 大人の精神保健② うつ病について理解する 13. 保護者の精神保健と子育て支援 保護者のメンタルヘルスを支える支援について考える 14. 保育者・教育者の精神保健 保育者・教育者の職業の特性、メンタルヘルスの維持・向上について学ぶ 15. まとめ 授業で学んだことから、精神保健活動について考える				
成績評価基準	定期テスト 70% 平常点評価 30%				
使用テキスト等	「精神保健」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	薬理学	授業区分	講義	単位数	2																
授業目標	講義は、教科書『疾患の成り立ちと回復の促進 薬理学』に準じており、下記の授業計画も、学生諸君が予習・復習し易いように、教科書の目次に沿って進めていく。薬物療法の理解も深めていくため、講義では、（１）病気（疾患）を知る（「どのような疾患であるか」、「どのような症状がでるか」など）、（２）病気の原因・成因（メカニズム）を知る（「どのようにして発症するのか」、「何故、発症するのか」など）、（３）薬物（疾患の原因・成因を取り除く）を知る（「疾患に対する治療戦略は」、「どのような薬物があるか」など）の順で、解説を行っていく。それにより、疾患治療に使用する様々な薬物の知識（使用方法や作用機序など）を理解することが出来ることを目標とする。																				
授業概要	薬剤の相互作用や副作用が発現するメカニズムを理解し、疾患と治療薬との関連性について理解する。また薬の添付文書の読み方、医薬品情報、疾患と治療薬などの情報の入手方法を学び実践で利用できるようにする。																				
授 業 計 画	<table><tr><td>1. 薬理学総論 薬理学の基本、薬はどのように作用するのか、薬の濃度と薬の作用</td><td>9. 利尿薬と泌尿・生殖器系に作用する薬</td></tr><tr><td>2. 自律神経系に作用する薬 交感神経系および副交感神経系作用薬、体性神経系に作用する薬（局所麻酔薬、神経筋遮断薬）</td><td>利尿薬、泌尿・生殖器系作用薬（膀胱・尿道機能障害治療薬、前立腺肥大症治療薬、子宮作用薬、勃起不全治療薬）</td></tr><tr><td>3. 中枢神経系に作用する薬（１） 統合失調症治療薬（抗精神病薬）、気分障害治療薬、睡眠薬</td><td>10. 血液に作用する薬 止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬</td></tr><tr><td>4. 中枢神経系に作用する薬（２） 不安障害治療薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬</td><td>11. 代謝性疾患とその治療薬 糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬、骨粗鬆症治療薬</td></tr><tr><td>5. 中枢神経系に作用する薬（３） 全身麻酔薬、鎮痛薬</td><td>12. 炎症や自己免疫疾患の治療薬 抗炎症薬、抗リウマチ薬、抗アレルギー薬</td></tr><tr><td>6. 循環系に作用する薬 心不全治療薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、抗高血圧薬</td><td>13. 化学療法薬（１） 抗感染症薬（抗菌薬、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬）</td></tr><tr><td>7. 消化器系に作用する薬物 健胃・消化薬、消化性潰瘍治療薬、制吐薬、腸に作用する薬、利胆薬、肝臓に作用する薬、鎮痙薬</td><td>14. 化学療法薬（２） 抗癌薬</td></tr><tr><td>8. 呼吸器系に作用する薬物</td><td>15. まとめ</td></tr></table>					1. 薬理学総論 薬理学の基本、薬はどのように作用するのか、薬の濃度と薬の作用	9. 利尿薬と泌尿・生殖器系に作用する薬	2. 自律神経系に作用する薬 交感神経系および副交感神経系作用薬、体性神経系に作用する薬（局所麻酔薬、神経筋遮断薬）	利尿薬、泌尿・生殖器系作用薬（膀胱・尿道機能障害治療薬、前立腺肥大症治療薬、子宮作用薬、勃起不全治療薬）	3. 中枢神経系に作用する薬（１） 統合失調症治療薬（抗精神病薬）、気分障害治療薬、睡眠薬	10. 血液に作用する薬 止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬	4. 中枢神経系に作用する薬（２） 不安障害治療薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬	11. 代謝性疾患とその治療薬 糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬、骨粗鬆症治療薬	5. 中枢神経系に作用する薬（３） 全身麻酔薬、鎮痛薬	12. 炎症や自己免疫疾患の治療薬 抗炎症薬、抗リウマチ薬、抗アレルギー薬	6. 循環系に作用する薬 心不全治療薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、抗高血圧薬	13. 化学療法薬（１） 抗感染症薬（抗菌薬、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬）	7. 消化器系に作用する薬物 健胃・消化薬、消化性潰瘍治療薬、制吐薬、腸に作用する薬、利胆薬、肝臓に作用する薬、鎮痙薬	14. 化学療法薬（２） 抗癌薬	8. 呼吸器系に作用する薬物	15. まとめ
1. 薬理学総論 薬理学の基本、薬はどのように作用するのか、薬の濃度と薬の作用	9. 利尿薬と泌尿・生殖器系に作用する薬																				
2. 自律神経系に作用する薬 交感神経系および副交感神経系作用薬、体性神経系に作用する薬（局所麻酔薬、神経筋遮断薬）	利尿薬、泌尿・生殖器系作用薬（膀胱・尿道機能障害治療薬、前立腺肥大症治療薬、子宮作用薬、勃起不全治療薬）																				
3. 中枢神経系に作用する薬（１） 統合失調症治療薬（抗精神病薬）、気分障害治療薬、睡眠薬	10. 血液に作用する薬 止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬																				
4. 中枢神経系に作用する薬（２） 不安障害治療薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬	11. 代謝性疾患とその治療薬 糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬、骨粗鬆症治療薬																				
5. 中枢神経系に作用する薬（３） 全身麻酔薬、鎮痛薬	12. 炎症や自己免疫疾患の治療薬 抗炎症薬、抗リウマチ薬、抗アレルギー薬																				
6. 循環系に作用する薬 心不全治療薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、抗高血圧薬	13. 化学療法薬（１） 抗感染症薬（抗菌薬、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬）																				
7. 消化器系に作用する薬物 健胃・消化薬、消化性潰瘍治療薬、制吐薬、腸に作用する薬、利胆薬、肝臓に作用する薬、鎮痙薬	14. 化学療法薬（２） 抗癌薬																				
8. 呼吸器系に作用する薬物	15. まとめ																				
成績評価基準	成績は「定期試験（100%）」で評価する。講義毎に出席をとり、出席回数により、定期試験の受験資格を決定する。																				
使用テキスト等	「ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち 臨床薬理学」（配本テキスト）																				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	臨床医科学Ⅰ	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	病理学に関する専門用語について説明できる。 病気の発生に関する基本概念について説明できる。				
授業概要	臨床医科学Ⅰは病理学総論にあたり、病気が発生する基本概念である炎症・循環障害・腫瘍・感染症・代謝障害などについて学習する。				
授業計画	1.病理学で学ぶこと 2.疾病の原因 3.細胞の損傷とその原因 4.細胞の修復と創傷治療 5.循環障害 6.炎症と免疫 7.アレルギーと自己免疫疾患 8.感染症 9.感染症の治療と予防 10.代謝障害 11.老化と死 12.先天異常と遺伝子異常 13.腫瘍 14.病理診断の実際 15.総括				
成績評価基準	授業内小テスト 50%、レポート 50%				
使用テキスト等	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進①」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	臨床医科学Ⅱ	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	各器官系の構造と機能について説明できる。 各器官系に生じる代表的な疾患とその病態生理について説明できる。				
授業概要	病理学各論にあたり、各器官に発生する病気ごとに原因、病気の成りたち、診断・治療について学習する。				
授業計画	1.循環器系の疾患 2.血液・造血器形の疾患 3.呼吸器形の疾患① 鼻腔・咽頭・喉頭の疾患 4.呼吸器形の疾患② 気管・気管支・肺の疾患 5.消化器系の疾患① 口腔・食道・胃・腸・腹膜の疾患 6.消化器系の疾患② 肝臓・胆管・胆嚢の疾患 7.肝・泌尿器系の疾患 8.生殖器系および乳腺の疾患 9.内分泌系の疾患 10.脳・神経系の疾患 11.筋肉系の疾患 12.骨折および骨疾患 13.筋肉系の疾患 14.感覚器系 15.総括				
成績評価基準	授業内小テスト 50%、レポート 50%				
使用テキスト等	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進①」（配本テキスト）				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	地域ボランティア	授業区分	実習	単位数	1
授業目標	地域の学童保育や社会福祉活動（傷害児家族支援事）などへのボランティア活動を通して、地域貢献と学生の質的向上を図る。ボランティア活動を通して、「個人の尊厳」や「社会連帯」について、課題に気づき、学びを深める。				
授業概要	学生として実際のボランティア活動を行い、その内容を理解し、よりよい自己実現を果たす。ボランティア実習時間 総数45時間以上とする。				
授業計画	・ ボランティア実習先の選定 ・ ボランティア実習の申込及び内諾 ・ 事前のオリエンテーション ・ 現場でのボランティア活動 ・ 記録の取り方 ・ 事後のオリエンテーション（気づきと反省）				
成績評価基準	実習参加・実習態度・実習記録				
使用テキスト等	※必要に応じ、適宜プリント教材を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育内容（環境Ⅱ）	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	環境による乳幼児の発達支援を幅広く考えたい。				
授業概要	ディスカッションを通して自らの問題として環境への洞察を深めたい。				
授業計画	1. 保育環境における問題点 2. 保育環境における問題点（演習） 3. 幼児教育環境における問題点 4. 幼児教育環境における問題点（演習） 5. 保護者、教育者にとっての環境の視点 6. 保護者への協力とは・Ⅰ 7. 保護者への協力とは・Ⅱ				
成績評価基準	単位認定試験（80％） 授業態度（20％）				
使用テキスト等	『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書（平成30年3月）』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）				
実務経験がある教員による授業科目	小学校校長（33年） ※上記の経験を持つ教員により、ディスカッションを通して自らの問題として環境への洞察を深めたように授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育内容（健康Ⅱ）	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	・ 「遊び」の概念を理解したうえで、こどもの「遊び」の発達について説明できる。 ・ 乳幼児期から児童期にかけての運動発達について説明できる。 ・ 伝統的行事や園における年間行事について説明できる。 ・ 虐待の内容を説明でき、いのちの大切さを育む教育・保育を考えることができる。				
授業概要	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な基本的知識、内容、方法を理解、習得する。				
授業計画	1. 「遊び」について①（「諸説」紹介／教育・保育における「遊び」の重要性／「遊ばれる」ことから「遊ぶ」ことへ） 2. 「遊び」について②（「遊ぶ」ことを学ぶ（ふり遊び／空想遊び／役割遊び／ごっこ遊び）） 3. 運動遊び①（生活の中に見る動き（基本的な動作）／幼児期運動指針／乳児期～幼児期～児童期の運動発達） 4. 運動遊び②（運動指導の在り方と教育・保育者の役割／事例紹介） 5. 模擬保育提案（指導案作成の視点／模擬保育／ふりかえり） 6. 伝統行事と園行事 7. 安全教育と安全管理（事故や病気・ケガの特徴／感染症／救命処置と応急処置／育むべき基礎的な力／備えと避難行動／事例紹介） 8. 虐待といのちの教育（虐待の種類と内容／こどもに及ぼす影響／法律／「生」と「死」／いのちを学ぶ園の環境構成）				
成績評価基準	単位認定試験（80％） 授業態度（20％）				
使用テキスト等	『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書（平成30年3月）』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館） ※幼稚園、保育士コースの履修者以外は副読本となる。 ※必要に応じて印刷資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	保育内容（人間関係Ⅱ）	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	・乳幼児教育の理解を深める ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「人間関係」を理解する。 ・乳幼児教育における「人とのかかわる力の基礎を育む」ための指導のあり方を理解する。				
授業概要	・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の保育内容「人間関係」を通して、乳幼児の人とのかかわる発達の過程や保育実践事例を提示し解説する。 ・保育の現場で乳幼児たちが他者とのかかわる様子や保育者のかかわりの実際などをVTR視聴を通して学ばせる。				
授業計画	1、幼児教育の基本 (1) 一人ひとりの発達の特性に応じた指導 (2) 保育者のさまざまな役割 2、乳幼児期の発達と領域「人間関係」 (1) 保育者との出会いとかかわり (2) 友だちとの出会いとかかわり 3、子どもと保育者のかかわり (1) 子ども同士の関係をつなぐ (2) 自己主張を支える 4、遊びの中の人とかかわり (1) 遊びの中で共有すること (2) 遊びをつくる				
成績評価基準	授業への参加態度、レポート、試験の成績、出欠状況、グループでの協議参加状態などを参考に総合的に評価する。				
使用テキスト等	・領域「人間関係」 幼稚園教育要領解説 平成20年10月 文部科学省 ・保育所保育指針解説書 平成20年4月 厚生労働省				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育制度・行政論	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	我が国の教育制度・教育行政の基本理念と体系について、憲法や法律等の関連法規を通して、理解する。				
授業概要	学校教育制度の概要と変遷及び学校教育の現状と課題 社会教育制度の概要と生涯学習の理念等について、具体的に学ぶ。				
授業計画	1、我が国の教育制度 2、教育制度の変遷 3、学校教育の現状 4、学校教育の現状と課題 5、義務教育制度 6、特別支援教育 7、社会教育の理念 8、生涯学習 9、教育行政の概要 10、教育行政機関 11、教科書制度 12、教職員制度 13、世界の教育制度 14、世界の教育制度 15、まとめ				
成績評価基準	試験、授業態度、出席、レポート等を総合的に勘案して評価				
使用テキスト等	「教育制度・行政論」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	公立小学校勤（教諭・教頭・校長通算25年）、文部教官（9年）、教育委員会・教育センター（国語科指導主事等 通算16年）を歴任 ※上記の経験を持つ教員により、子どもの言語表現の指導法について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	特別活動指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	特別活動の目的は、人間形成にある。教科教育とは異なり、自主的、実践的な態度を育てる集団活動である。学校や児童・生徒の実態に応じて、学校の自主性と創意・工夫を重視して指導し、人間形成の到達を目指すものである。				
授業概要	特別活動の歴史と現代的意義を理解した上で、新しい学力観と特別活動の係りを考察する。また、特別活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事などのそれぞれの特質を明確に把握する。年間指導計画や学習指導案、それに学級新聞など実践に関する課題を考えていきたい。				
授業計画	1、第1次 特別活動の理論 2、教育課程と特別活動の意義及び重要性 3、教育課程行政と学習指導要領と特別活動 4、特別活動の歴史からみた特質 5、学校教育課程の編成・実施と特別活動 6、第2次 特別活動の指導原理 7、特別活動の指導体制 8、特別活動の年間指導計画の内容と手順 9、第3次 特別活動の実践指導 10、学校行事の年間指導計画 11、学級活動の年間指導計画 12、学級新聞作り 13、第4次 特別活動の評価と現代の課題 14、特別活動の指導評価 15、特別活動と現代の課題				
成績評価基準	・授業でのレポート作成及び提出を考慮する。 ・授業を受ける態度や取り組みへの意欲を考慮する。 ・授業への出欠を考慮する。				
使用テキスト等	「特別活動指導法」（配本テキスト） ・文部科学省「小学校学習指導要領解説特別活動編」				
実務経験がある教員による授業科目	中学校教諭（28年）中学校教頭（4年）小学校校長（3年）県立教育センター（3年） ※上記の経験を持つ教員により、学校や児童・生徒の実態に応じて、学校の自主性と創意・工夫を重視して指導し、人間形成の到達を目指すように授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	国 語 I	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	小学校国語科教育に必要な国語の基礎的基本的知識を学習することを目標とする。 国語科においてこれまでの研究について明らかになったことや問題点について理解する。				
授業概要	普段使っている日本語について興味と関心を持ち、「日本語の特徴」「言語の習得」「語彙」「文法」等に触れ、日本語の歴史について理解を深める。				
授 業 計 画	1、国語の輪郭 2、子どもの国語と音韻 3、詩の朗読を通して国語の音声と音韻 4、国語の品詞と文法 5、国語と外来語 6、敬語 7、方言と共通語 8、漢語 9、詩 10、短歌、俳句 11、四字熟語 12、古典 13、かたかな、ひらがな、漢字 14、表記法 15、日本語の歴史				
成績評価 基準	発表態度、演習態度、出席、実演等と期末テストによって総合的に判断する。				
使用テキスト等	「国語 1」（配本テキスト）				
実務経験 がある教 員による 授業科目	公立小学校勤（教諭・教頭・校長通算25年）、文部教官（9年）、教育委員会・教育センター（国語科指導主事等 通算16年）を歴任 ※上記の経験を持つ教員により、子どもの言語表現の指導法について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	書 写	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	正しく整えて、読みやすく書くという言語としての機能性の上にたっている「書写」という教科を指導するにあたり、こども一人ひとりの特性を生かした適切な指導が出来る力を養い、また教員としての資質向上を目標とする。講義の前半では臨書を中心とした、基本的な用筆、運筆による点画や線質の表し方を習得し、講義後半では、小筆を使用して「かな」等に取り組み、字形構成の把握や、字源などにもふれ、文字教育を発展させる「書写」の使命を理解する。				
授業概要	字形の認知、また筆使いの習得の為、用筆、形態美、線の鋭さ、点画の厳しさなど、極楷とも言われる楷書の代表的な「九成宮醴泉銘」の臨書を中心に行う。毛筆→書道→芸術という発想になりがちではあるが、毛筆→硬筆→日常文書という発展を考え、正しく、整えて速く書く能力を習得し、文字活動を円滑に営むことのできる基礎力を充実させる。「文字を美しく書く」という実践力を養い、応用性を身につけさせる。				
授業計画	1. 書写教育並びに、臨書および古典「九成宮醴泉銘」の説明 2. 「九成宮醴泉銘」の臨書① 3. 「九成宮醴泉銘」の臨書② 4. 「九成宮醴泉銘」の臨書③ 5. 文字、「漢字」「かな」の成り立ち説明 6. 「かな、漢字仮名交じり文」の練習 7. 「採点、評価」の仕方 8. まとめ				
成績評価基準	・受講態度 ・提出物				
使用テキスト等	※必要に応じて印刷資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	家庭科指導法	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	・家庭科の目標、内容を理解し、実践的、体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身につける。 ・家庭科の各領域の学習指導の実際について理解する。				
授業概要	・小学校学習指導要領解説「家庭編」の内容を理解する。 ・各領域の授業内容作りに必要な基本的考えを理解する。 ・授業内容の学習指導案作成。				
授業計画	1、家庭科教育について 2、女性差別撤廃条約 3、こどもの権利条約 4、男女共同参画社会 5、家族・家庭について 6、小学校学習指導要領解説「家庭編」の内容 7、小学校（5・6年）の家庭科の内容 8、「わたしたちの家庭科」の学習内容の指導案作成				
成績評価基準	・出席状況・授業態度・試験結果・提出物等をもって総合的に評価する。				
使用テキスト等	「わたしたちの家庭科5・6年」「小学校学習指導要領解説 家庭編」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	高校教諭（経験38年） ※上記の経験を持つ教員により、家庭科の基礎・各領域の学習指導の実際を理解するよう授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育実習事前・事後指導（小学校）	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	1. 小学校における教育実習に対する心構えをもち教育実習の内容を理解する。 2. 教育環境の整備、授業の準備、学習指導の方法等、教育活動、学習指導の在り方を理解する。 3. 小学校教師の役割と責任を理解し、教育活動の実践的な認識を深める。 4. 教職生活を体験することにより教職志望を確認し教育研究の意欲を高める。				
授業概要	教職に関する科目の「教育実習事前・事後指導（小学校）」は小学校教育実習へ向けて、その心構えの形成、教育実習の目的の理解、実戦的指導力の向上及び教育実習後の教育実践体験の省察が目標となる。				
授業計画	1. 教育実習の準備と心構え ①実習校への対応、②実習へ臨む心構え、③実習に関する事務的な手続きなど 2. 教育実習で学ぶべき内容 ①教師と児童の関係、児童同士の関係、②教師の児童への働きかけ、③学習指導の在り方、④学級経営など 3. 実習記録の意義と記録の在り方 ①実習記録の記入の仕方、活用の仕方、授業参観、観察・記録の方法など 4. 児童理解について ①児童理解の方法、②学習指導と児童理解、③特別支援教育と児童理解、④生徒指導と児童理解 5. 学習指導案と授業展開 ①教科等の学習指導案の検討、学習の導入、授業形態、発問、板書などについて 6. DVD（授業実践例）による授業の検討 ①DVDによる授業の検討、②模擬授業批評会など 7. 模擬授業 ①相互に批評しよりよい授業についての検討、②授業参観の視点、③自己の実践的能力の課題の明確化など 8. 教育実習終了後の取り組みについて				
成績評価基準	レポート、模擬授業、授業への関心・意欲・態度をもとに総合的に評価する。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導（小学校）」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	公立小学校勤（教諭・教頭・校長通算25年）、文部教官（9年）、教育委員会・教育センター（国語科指導主事等 通算16年）を歴任 ※上記の経験を持つ教員により、子どもの言語表現の指導法について授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	介護体験実習	授業区分	実習	単位数	1
授業目標	・体験実習を通して、ノーマライゼーションを考える。 ・体験実習から援助を必要とする人の精神面、身体面、社会面における実態について理解する。				
授業概要	特別支援学校や社会福祉施設等において、障害児・者や高齢者等の日常生活に係る食事、排泄、入浴、衣類の着脱等の介護・介助を体験する。				
授業計画	・介護体験実習				
成績評価基準	実習評価と面接				
使用テキスト等	※必要に応じて印刷資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教育実習（小学校）	授業区分	実習	単位数	4
授業目標	教育実習の心得と事前準備について事前学習をする。 教育実習後の反省をする。				
授業概要	・教育実習とは何か ・実習先についての予備学習 ・実習をすみやかに行うための事前の学習をする。				
授業計画	1、教育実習とは 2、教科指導のポイント 3、教科指導のポイント 4、児童の発達 5、実習の態度 6、礼儀作法と基本的行動様式 7、交通手段と服装 8、実習日誌の書き方 9、実習日誌の書き方 10、指導計画の立て方 11、指導案の作成 12、指導案の作成 13、指導案の作成 14、学校での実習 4 週間 15、事後指導				
成績評価基準	出席、授業態度、レポート、計画書、学習指導案等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	「学習指導要領」				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	人体機能学	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	人体を構成する各組織の生理機能を説明できる。各組織の生理機能を踏まえ、疾病との関連を説明できる。				
授業概要	興味がありながら、または知ってるつもりでも、実は知らないことの多い人体について学び、臨床における力を身につけるために、実例やテーマを通してディスカッションを行う。将来遭遇する可能性のある疾病等の学習				
授業計画	1、細胞と神経 2、筋の収縮メカニズム 3、関節運動の生理 4、消化器の働き 5、循環器 6、中枢神経 7、感覚器 8、栄養学 9、小児に多い疾病				
成績評価基準	筆記試験（100%）				
使用テキスト等	「人体機能学・人体構造学」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	理学療法士経験11年（総合病院勤務経験） ※上記の経験を持つ理学療法士により、人体を構成する各組織の生理機能を説明して、各組織の生理機能を踏まえ、疾病との関連を説明できるよう授業を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	人体構造学	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	人体各部を形体学的に捉え、運動や動作に結びつけることができる。				
授業概要	人体構造を踏まえ、体験型の学習を主体に行う。 将来遭遇する可能性があるケガなどの学習。				
授業計画	1、身体の各部位の名称 2、骨・関節について 3、筋について 4、消化器について 5、循環器について 6、中枢神経について 7、感覚器について 8、小児に多い骨折・脱臼				
成績評価基準	筆記試験（100％）				
使用テキスト等	「人体機能学・人体構造学」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	理学療法士経験6年（整形外科勤務経験） ※上記の経験を持つ理学療法士により、人体各部を形体学的に捉え、運動や動作に結びつけることができるよう授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	養護実習事前・事後指導	授業区分	講義	単位数	1
授業目標	① （事前指導）養護実習に向けて十分な準備と心構えを持つことができる。 ② （事前指導）養護教諭の職務や専門性について説明できる。 ③ （事後指導）養護実習終了後、実習をふりかえり、自身の今後研鑽すべき課題を発見し、自己の描く養護教諭像に近づける見通しをもつことができる。				
授業概要	養護実習をより充実したものとするため、実習の目的、意義についての理解を深め、実習への心構えを明確にする。また、実習の方法、実習簿の記録方法について説明すると共に、実習で必要となる基礎的知識や技術、マナーや倫理についての確認を行う。 以上の学習を通して、養護実習に必要となる基礎的知識・技術を習得し、実習への姿勢を明確にする。				
授業計画	1. 養護実習の目的、意義、方法 2. 目標の設定、養護実習の内容 3. 学校教育、学校保健全般に関すること（最新事情） 4. 養護教諭の職務と保健室 5. 学校の日（健康観察、学校環境・安全、アレルギー、感染症等） 6. 学校行事（健康診断等） 7. 健康教育と養護教諭（指導案の作製等） 8. 実習生としての心得（マナー、実習記録簿の記入等）				
成績評価基準	授業への参加度、提出物、レポートの結果を総合して評価する。				
使用テキスト等	「養護実習事前・事後指導」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭（38年） ※上記の経験を持つ教員により、保健活動の意義や発育、発達によるこどもの健康状態の把握、また子どもの疾病と予防などを学ぶ。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	教職実践演習（養護）	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	①これまでの学修や養護実習での学びを統合させ、養護教諭の具体的役割の自覚を強くする。 ②学校現場で児童生徒に十分対応していける資質・能力及び養護教諭としての使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人間観察能力、連帯力を備えるに至ること、またそれを確かなものとするために、現時点での自己課題を明確にすることができる。 ③子ども理解や健康問題の解決のための支援、保健管理、保健教育等、養護教諭としての確かな実践力、指導力の重要性を認識し、備えるに至ることができる。 ④養護技術を駆使し、救急処置ができることを目標とする。				
授業概要	本授業は、大学における養護教諭養成課程のまとめとして、これまで学習してきた内容を、養護教諭に求められる実践的指導力として統合することを目的とするものである。授業では、これまでの学習の振り返りや反省を通し、研鑽すべき課題を明らかにすると共に、実践演習、ロールプレイング、模擬授業、グループ討議、ディスカッション等により、実践的能力の習得を目指す。				
授業計画	1. 「教職実践演習」を学ぶ意義の確認 2. 「養護」についての理解 3. 学校保健活動の推進について 4. こども理解、子どもの現代的健康課題実態の把握、健康観察・健康相談活動の実際 5. 保健教育の実際 6. 学校における看護的技術 7. 学校における救急処置 8. まとめ				
成績評価基準	レポート、模擬授業、授業への関心・意欲・態度をもとに総合的に評価する。				
使用テキスト等	履修カルテ「教職実践演習」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭（38年） ※上記の経験を持つ養護教諭により、実践演習、ロールプレイング、模擬授業、グループ討議、ディスカッション等により、実践的能力の習得させるように授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	公衆衛生学Ⅰ	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	公衆衛生とは、人間が健康に生活するための組織的社会活動である。健康については多くの機関によりさまざまに定義されていることを理解する。				
授業概要	公衆衛生学では、「健康」を個人と集団のレベルで考える学問である。公衆衛生学Ⅰでは個人レベルの課題を中心として、健康と疾病、公衆衛生活動の概念を学びつつ、健康の維持・増進に関わる諸問題について、保健統計や諸外国との比較、栄養の考え方なども含めて学習する。				
授業計画	1. 公衆衛生の概念 公衆衛生、予防医学の定義、公衆衛生活動を学習し健康を維持するうえでの役割を理解する。 2. 人口統計・保健統計 静態統計・動態統計からそれぞれの国、地域の人々の人口、疾病、傷病の状況から健康について学ぶ。 3. 成人保健 成人期に発生しやすい疾病の予防・健康の維持・増進をはかり、疾病の予防手段の適用を考え健康に対してのプロセス構築を理解し有意義な生活が送れること学ぶ。 4. 疾病予防を健康管理 疾病の予防は、発症の阻止だけでなく健康と疾病の自然史的な見方の中で予防医学を具体的に理解する。 5. 主な疾病の予防 感染症の基礎知識を理解し、感染症の循環器、糖尿病や癌などの具体的な予防対策について学ぶ。 6. 栄養と健康 栄養素の食事摂取量は身体の状態と密接な関係があり、食事がどのような病態と関連しているか学ぶ。食中毒とその症状の特徴及び食品の安全について学ぶ。 7. 老人福祉 高齢者の定義、高齢者の健康と生活、高齢者の医療の確保に関する法律を学ぶ。 8. 精神保健 精神保健は、重要な分野として位置づけられている今日、精神保健の目的と意義を理解する。				
成績評価基準	レポート、模擬授業、授業への関心・意欲・態度をもとに総合的に評価する。				
使用テキスト等	「公衆衛生学Ⅰ」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	看護師（26年） ※上記の経験を持つ看護師により、公衆衛生、予防医学の定義、公衆衛生活動を学習し健康を維持するうえでの役割を理解するよう授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	公衆衛生学Ⅱ	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	公衆衛生活動には、国際レベルでの「国際保健」地域レベルでの「地域保健」職場での「産業保健」があり、そのレベルでの健康の維持・増進の活動がある。それぞれの活動の役割を学習し、健康について理解する。				
授業概要	集団としての公衆衛生学を学習する。まず基本である「疫学」の意義や手法について学び、さらに地球規模から身の回りの問題までの環境問題やその維持・改善に関する学習、労働に関連する産業保健、保健管理システムとしての地域・国際保健、衛生法規など広い視野での学習を目指す。				
授業計画	1. 免疫 伝染病などの原因や流行の調査及びその原因を解明し、人間集団にとって最善の健康状態実現に向けた予防対策を立案していることを学ぶ。 2. 環境保健 大気汚染や水質汚濁などの生活環境の汚染問題、公害問題など人間の健康に及ぼす影響を考える。 3. 産業保健 勤労に伴う労働災害、職業病及び作業関連疾病を防ぎ、働きがいをもって職業生活を送るための法律制度を学ぶ。 4. 母子保健 母性として、結婚前から妊娠、分娩、新生児期、乳幼児期を通して母子保健の現状と課題を国際比較を通して少子化問題を考える。 5. 国際保健 交通網の発達により地球が狭くなっているため、感染症や人々の健康問題を地球レベルでとらえ、国際連合やWHOの役割を学ぶ。 6. 地域保健 地域住民が、その生活基盤の中で自らの健康保持及び増進を図ることができるように支援していく一連の活動と保健所の役割を学ぶ。 7. 衛生法規 医療保険、年金保険、雇用保険、労災保険、介護保険の社会保険の仕組みとそれに関連する医療法、薬事法等を学習する。				
成績評価基準	レポート、模擬授業、授業への関心・意欲・態度をもとに総合的に評価する。				
使用テキスト等	「公衆衛生学Ⅱ」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	看護師（26年） ※上記の経験を持つ看護師により、伝染病などの原因や流行の調査及びその原因を解明し、人間集団にとって 最善の健康状態実現に向けた予防対策を立案することの授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	養護概説	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	① 学校教育の役割を理解し、養護教諭の位置づけを説明することができる。 ② 「養護」の概念、養護教諭の職務及び専門性について述べるができる。 ③ 対象となる子どもについて多面的に理解し、課題解決に向けて支援方法を述べることができる。 ④ 養護教諭としての基本的・応用的知識・技術・職務遂行に必要な資質・能力について理解し、専門職としての養護教諭観を示すことができる。				
授業概要	養護の本質や概念や養護教諭の食の歴史的変遷を学ぶ中で、養護教諭の専門職としての職務と教育における役割について理解する。また、職務の基本と実際について学ぶ中で、学校保健活動の推進における中核的役割を果たすべき力や子どもを取り巻く健康課題とその解決の支援について考える。さらに、養護教諭としての基礎的・応用的知識・技術を学び科学的な理論と実践の中で専門職としての自覚と研究的な資質・力量を身につける。				
授業計画	1.養護の本質と概念と教育に果たす養護教諭の役割 養護教諭の歴史的変遷と子どもの健康課題 2.養護教諭の職務遂行に必要な資質・能力 3.養護教諭の専門的機能 4.保健室の機能 5.保健管理:健康診断・緊急処置・疾病の予防と管理について 6.保健教育 7.健康相談 8.保健室経営と保健組織活動				
成績評価基準	受講状況 レポート提出(本学所定のレポート用紙を使用すること) 授業内テスト等の総合所見により評価を行う。				
使用テキスト等	「新養護概説」（配本テキスト）				
実務経験がある教員による授業科目	養護教諭（38年） ※上記の経験を持つ養護教諭により、養護の本質や概念や養護教諭の専門職としての職務と教育における役割について理解するよう授業を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	看護学Ⅰ	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	・看護を提供する際に共通する基本的な技術と健康問題を有する対象者の日常生活を整えるために必要な援助技術について学ぶ。				
授業概要	学校という場における看護的役割や看護的能力の力量形成のための基盤として看護・養護とは何か、看護の役割と機能、看護活動、援助者 [°] の論理に焦点をあてた看護学総論、看護の基本、看護教諭としての資質、養護実践のプロセスの構成要素などに焦点をあてた基礎的看護について考察しながら学習を深める。				
授業計画	I.看護技術の基本 1.人間の尊厳にもとづく看護技術 ・尊厳の指標は個人に重きを置いており、看護技術は1人ひとりがよりよい日常生活が送れるよう健康の状態をつくることにあり、その知識について学習する。 2.看護技術の考え方 ・必要性のある状態をアセスメントし科学的根拠に基づく看護を行う。そのためには看護者自身がより豊かであることが求められている。知識・技術・精神は別なものではないことを学習する。 3.人間関係を発展させる技術 ・看護師関係を発展させるには、コミュニケーションという日常的で基本的な技術がある。コミュニケーション全体の53%は聞くことにある。それを考え、その技術を習得する。 4.生活を支える援助技術 ・生命現象のあらわれとして生活がある。その生活への働きかけは、日々の生活行動の中に存在しており、その生活行動を支える援助が健康への基本であることを学習する。 5.安全・安楽を守る技術 ・看護の働きかけの基本的な要素には、安全・安楽・自立の要素があり身体面と精神面の両側面からとらえ安楽の考え方を学習する。 6.自立への過程 ・身体的・心理的・社会的要素が含まれる。ADLの自立QOLを考え自己決定を尊重していくことが重要になっている。その自立に必要な外的(客観的)・内的(主体的)条件について学習する。 7.コミュニケーションの技術 ・効果的(治療的)・効果的ではない(非治療的)コミュニケーションを学習し患者を理解することができ、同時に自分の対応を見直すことができるよう会話のプロセスを学習する。 8.ヘルスアセスメント ・ヘルスアセスメントは人間の一生を通して何度なく継続的に行われる。看護診断に関わるもの呼吸・体温・脈拍・血圧等のバイタルの測定技術を習得し、意識レベルを判断する分類について学習する。 9.ボディメカニズムと人間工学 ・良い姿勢の保持に留意し、せいいりてきに疲労しにくいことが重要である。作業姿勢・安楽な姿勢について学習する。 10.運動・活動 ・活動には、生産・学習・精神・消化活動があり、運動は空間的一の移動である。活動は筋肉の作用によって生じるものである。その運動の効果と廃用症候群について学習する。 11.休息・睡眠 ・生態的には、活動と休息のリズムを作り出す生物時計がある。サーガディアンリズムから考え生活のリズムを整えるよう援助する。				
成績評価基準	・授業態度、筆記試験、レポート提出物の総合評価により判断する。				
使用テキスト等	「ナースング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	看護師(26年) ※上記の経験を持つ看護師により、看護を提供する際に共通する基本的な技術と健康問題を有する対象者の日常生活を整えるために必要な援助技術について学ぶよう授業を行う。				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	看護学Ⅱ	授業区分	講義	単位数	2
授業目標	看護を提供する基本的な技術と人々の身体的、心理的、社会的健康状態を総合的に把握し、その人に適切な看護ケアを実践するための基礎力を養う。				
授業概要	看護学Ⅰで習得した基礎的知識を基盤にして、学校における看護を展開するために必要な技術として、観察とコミュニケーション、安全・安楽といった共通する技術、急性期および慢性期における症状と支援・援助について、根拠を踏まえて学習する。				
授 業 計 画	Ⅱ.か考える看護技術 1.感染予防 ・感染源・感染・感染症という区別して使う意味を理解する。実際の現場では病原体そのものを撲滅することは現実的にはできないため、基本的な感染予防法について学習し常に衛生的な手洗いを学習する。 2.病床環境の整備 ・自然治療を高めるための手段の一つとして環境を整えることが看護実践において重要である。健康の回復という目標に向かう手段としての看護援助を理解する。 3.体位と移動 ・自動的・他動的に身体を動かすことや体位を保持することは、身体的意義・精神的意義があり日常生活動作(ADL)のすべての基盤となる体位変換・体位の保持・移動に関する技術を習得する。 4.栄養と食事 ・栄養素補給の生理的意義・心理的意義・社会的意義を理解する。人間であるための食事摂取の意義を基盤として、対象者の状態に応じた適切な食事援助方法を習得する。 5.排泄援助 ・排泄物は生体の生命活動の結果としての産物である。その排泄物の状態を把握し、排便・排尿の援助技術を習得する。 6.衣生活 ・人間にとっての衣服は生理的意義・心理的意義・社会的意義がある。対象者の状態と状況により、選択肢、衣生活の重要性とその援助方法を習得する。 7.身体の清潔 ・身体の清潔を保つことは皮膚の正常機能を維持し健康な日常生活を営む上で欠くことのできない生活行動であり感染予防でもある。入浴、全身清潔、部分清拭、口腔ケアなどについて学習する。 8.薬物と看護 ・医薬品の取り扱い、その品質の有効性・安全性を確認することが重要である。薬事法、日本薬学療法また、毒薬、劇薬の取り扱いの基本について学習する。 9.安楽をうながすための看護 ・器法は苦痛を緩和する治療法であったが現在補助的治療として併用することが多い器法の目的と定義について学習する。器法は看護師の判断によって計画実施されることが多いため、生活への影響を正しく理解し選択し評価することが重要であることを学ぶ。 10.呼吸を整えるための看護吸引 ・対象者が吸引を必要としている状態であるかアセスメントし、適切な方法を選択し安全に実施する。援助校歌の評価が重要となる。また適切に行われていない生命を左右することにもなるので確実な観察と技術を習得することが大切である。 11.創傷保護のための看護(包帯法) ・包帯法の意義や使用目的、包帯の材質による使用適用について理解する。巻軸包帯の巻き方、三角巾の取り扱い、絆創膏包帯の装着方法を習得する。 12.終末期・死亡時の看護 ・終末期にある人とその家族の悲しみを理解し、対象者の尊厳ある死を迎えるための看護の役割を理解する。死亡に対して礼をもって死後処置ができ家族の別れの儀式を行うための援助ができるよう学ぶ。				
成績評価基準	人間の尊厳に基づく看護技術を学び、人間が自然の特性や法則を認識し、発見しそれを利用できる技術を習得できるよう学習する。				
使用テキスト等	「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術」(配本テキスト)				
実務経験がある教員による授業科目	看護師 (26年) ※上記の経験を持つ看護師により、看護を提供する基本的な技術と人々の身体的、心理的、社会的健康状態を総合的に把握し、その人に適切な看護ケアを実践するための基礎力を養うよう授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	養護実習	授業区分	実習	単位数	4
授業目標	①学校という教育現場について説明することができる。 ②保健室、養護教諭の役割について説明することができる。 ③養護教諭の職務について説明することができる。 ④養護教諭の職務を体験し、必要な能力を養う。 ⑤養護教諭への意欲を高めると共に、養護教諭として必要な資質、態度について理解することができる。				
授業概要	養護実習は、教育職員免許法施行規則第 10 条に基づき、学校教育の現場において勤務し、児童生徒の養護を つかさどる養護教諭に関する実践的学習を行うものである。これまで大学で学んだ理論を実際に体験すること によって養護教諭に必要な知識・技能を習得すると共に、自分なりの教師観、養護教諭観を確立していくこと を目的としている。				
授業計画	実習期間 10 月～11 月（4 週間） 実習内容 実習を通して、養護教諭に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。				
成績評価基準	実習校での成績評価を基に総合的に評価する。				
使用テキスト等	『新養護概説＜第 10 版＞』采女智津江代表編著、少年写真新聞社、2018 年（配本テキスト）				

授業概要 (シラバス)

令和5年度 こども未来学科

科目名	臨床実習	授業区分	実習	単位数	1
授業目標	本授業では、臨床実習の生誕に繋げるための事前学習および実習の準備をする。 臨床実習の全体像を把握するとともに臨床実習目標の達成のための行動目標および実習記録の活用について具体的に学習する。				
授業概要	養護教諭は、学校において唯一医学・看護学的知識・技術を持つ教員であることを認識し、医療機関における見学・実習を通して、その力量の確認と実施を行う。臨床実習期間は5日間とし、病院の概要、外来受診・入院から退院までの流れ、入院患者(児)の生活や学校との連携、看護師のアセスメント技術とコミュニケーション技術、感染予防、緊急対応等、実感をもった知識を習得する。実習記録の内容をよく理解し、その上で、外来実習および病棟実習をバランスよく積極的に体験し、学校における子ども達の健康問題の解決に向けた支援をできるようにする。				
授業計画	1.オリエンテーション(看護学臨床実習の概要等) 2.社会における病院の役割と機能 3.病院における感染予防対策 4.実習内容および記録類(実習記録、評価表など)、実習事後レポートの理解と活用 5.実習記録の書き方 6.ベッドメイキング・応急手当 7.授業の総括				
成績評価基準	受講態度、提出物等により総合的に評価する。				
使用テキスト等	※必要に応じて印刷資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	総合演習 I	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	乳幼児の保育・教育を総合的・分析的に学習してきた。その集大成としてテーマを設定し、論理化・実践化することを目標とする。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	1.課題研究、作品制作とは 2.テーマ選択・設定① 3.テーマ選択・設定② 4.調査法 5.創造の方法 6.実習作業① 7.実習作業② 8.発表① 9.発表②				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	音楽実技 I	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	保育の現場で活用できる、季節・行事・生活の歌を中心に弾き歌いが出来るようにするとともに、初見演奏、コードを使用しての伴奏づけの技術を高める。				
授業概要	各個人の基礎技術を確認しながら、応用へつなげていく。				
授業計画	（前期）・楽典・譜面の基礎 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 ・初見演奏の訓練（総合） 2.幼児の歌（ソルフージュ） ・ソルフージュの基礎 ・弾き歌いの応用 3.試験曲の決定 （後期）・楽典・譜面の基礎 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 ・初見演奏の訓練（総合） 2.幼児の歌 ・弾き語りの表現 3.試験曲の決定				
成績評価基準	・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲（①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い）				
使用テキスト等	幼児のための音楽教育（教育芸術社）の中から各自のレベルに応じた楽譜 配本テキスト：「こどもと音楽表現」 ・ピアノ演奏の基礎から技術的な向上を求めて、各自のレベルに合わせた楽譜を選択 ・ソルフージュの基礎力を高めるための楽譜を選択				
実務経験がある教員による授業科目	音楽教室講師（5年） ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ演奏、ソルフージュ、弾き語り等の演習授業を行う。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	総合演習Ⅱ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	乳幼児の保育・教育を総合的・分析的に学習してきた。その集大成としてテーマを設定し、論理化・実践化することを目標とする。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	1.課題研究、作品制作とは 2.テーマ選択・設定① 3.テーマ選択・設定② 4.調査法 5.創造の方法 6.実習作業① 7.実習作業② 8.発表① 9.発表②				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	音楽実技Ⅱ	授業区分	演習	単位数	4												
授業目標	・「幼児の歌」が初見でも弾けるようにする。 ・コードを使用して、簡単な伴奏づけが出来るようにする。 ・簡単な初見演奏が出来るようにする。																
授業概要	・各自のレベルに合わせた個人指導によりピアノの演奏技術を高める。 ・テキストと「幼児の歌」を中心にした総合レッスン。																
授業計画	<table><tr><td>(前期)</td><td>(後期)</td></tr><tr><td>1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲</td><td>1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲</td></tr><tr><td>2.幼児の歌</td><td>2.幼児の歌</td></tr><tr><td>3.初見演奏・初見歌唱</td><td>3.初見演奏</td></tr><tr><td>4.コード進行(応用)</td><td>4.伴奏法</td></tr><tr><td>5.試験曲の決定</td><td>5.試験曲の決定</td></tr></table>					(前期)	(後期)	1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲	1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲	2.幼児の歌	2.幼児の歌	3.初見演奏・初見歌唱	3.初見演奏	4.コード進行(応用)	4.伴奏法	5.試験曲の決定	5.試験曲の決定
(前期)	(後期)																
1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲	1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲																
2.幼児の歌	2.幼児の歌																
3.初見演奏・初見歌唱	3.初見演奏																
4.コード進行(応用)	4.伴奏法																
5.試験曲の決定	5.試験曲の決定																
成績評価基準	・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲(①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い)																
使用テキスト等	「幼児のための音楽教育」(配本テキスト)の中から、各自のレベルに応じた楽譜 「こどもと音楽表現」(配本テキスト)の中から ・ピアノ演奏の基礎から技術的な向上を求めて、各自のレベルに合わせた楽譜を選択																
実務経験がある教員による授業科目	音楽教室講師(5年) ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ奏法、幼児の歌の弾き語り等の演習授業を行う。																

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	総合演習Ⅲ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	テーマを設定し、論理化・実践化することを目指す。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	1.課題研究、作品制作とは 2.テーマ選択・設定① 3.テーマ選択・設定② 4.調査法 5.創造の方法 6.実習作業① 7.実習作業② 8.発表① 9.発表②				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	音楽実技Ⅲ	授業区分	演習	単位数	4		
授業目標	・「幼児の歌」が初見でも弾けるようにする。 ・コードを使用して、簡単な伴奏づけが出来るようにする。 ・簡単な初見演奏が出来るようにする。 〈ピアノ実技〉・プルグミュラー（no.1～no.13） 〈ソルフェージュ〉・プルグミュラー（コールコーブニゲン） 〈弾き歌い〉・愛唱歌						
授業概要	・各自のレベルに合わせた個人指導によりピアノの演奏技術を高める。 ・テキストと「幼児の歌」を中心にした総合レッスン。						
授業計画	<table><tr><td>（前期） 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏・初見歌唱 4.コード進行（応用） 5.試験曲の決定</td><td>（後期） 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏 4.伴奏法 5.試験曲の決定</td></tr></table>					（前期） 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏・初見歌唱 4.コード進行（応用） 5.試験曲の決定	（後期） 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏 4.伴奏法 5.試験曲の決定
（前期） 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏・初見歌唱 4.コード進行（応用） 5.試験曲の決定	（後期） 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 3.初見演奏 4.伴奏法 5.試験曲の決定						
成績評価基準	・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲（①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い）						
使用テキスト等	「幼児のための音楽教育」（配本テキスト）の中から、各自のレベルに応じた楽譜 プルグミュラー／コールコーブニゲン 「こどもと音楽表現」（配本テキスト）の中から ・ピアノ演奏の基礎から技術的な向上を求めて、各自のレベルに合わせた楽譜を選択						
実務経験がある教員による授業科目	音楽教室講師（5年） ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ奏法、幼児の歌の弾き語り等の演習授業を行う。						

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	総合演習Ⅳ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	乳幼児の保育・教育を総合的・分析的に学習してきた。その集大成としてテーマを設定し、論理化・実践化することを目標とする。				
授業概要	テーマ設定及び課題研究発表・作品制作について、演習・実習をまじえて学ぶ。				
授業計画	1.課題研究、作品制作とは 2.テーマ選択・設定① 3.テーマ選択・設定② 4.調査法 5.創造の方法 6.実習作業① 7.実習作業② 8.発表① 9.発表②				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポートの点数、試験の点数等で総合的に評価する。				
使用テキスト等	適宜資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

令和5年度 こども未来学科

科目名	音楽実技Ⅳ	授業区分	演習	単位数	4
授業目標	・「幼児の歌」が初見でも弾けるようにする。 ・コードを使用して、簡単な伴奏づけが出来るようにする。 ・簡単な初見演奏が出来るようにする。				
授業概要	・「幼児の歌」が初見でも弾けるようにする。 ・コードを使用して、簡単な伴奏づけが出来るようにする。 ・簡単な初見演奏が出来るようにする。 〈ピアノ実技〉・プルグミュラー (no.14～no.25) 〈ソルフェージュ〉・プルグミュラー (コールコーブニゲン) 〈弾き歌い〉・愛唱歌				
授業計画	(前期) (後期) 1.ピアノ奏法 1.ピアノ奏法 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 ・各自のレベルに合わせたピアノ曲 2.幼児の歌 2.幼児の歌 3.初見演奏・初見歌唱 3.初見演奏 4.コード進行(応用) 4.伴奏法 5.試験曲の決定 5.試験曲の決定				
成績評価基準	・受講する曲の受講までの練習、出席、授業態度、試験により評価する。 ・試験曲(①テキストより指定 ②「幼児の歌」より弾き歌い)				
使用テキスト等	「幼児のための音楽教育」(配本テキスト)の中から、各自のレベルに応じた楽譜 プルグミュラー／コールコーブニゲン 「こどもと音楽表現」(配本テキスト)の中から ・ピアノ演奏の基礎から技術的な向上を求めて、各自のレベルに合わせた楽譜を選択				
実務経験がある教員による授業科目	音楽教室講師(5年) ※上記の経験を持つ教員により、ピアノ奏法、幼児の歌の弾き語り等の演習授業を行う。				